

答申中間案に関する意見対応表

項目	細項目	パブリックコメント			地区別意見聴取会		
		提出意見内容	左記意見の主旨	意見に対する考え方(案)	意見の要旨	左記意見の主旨	意見に対する考え方(案)
第1章 1 本県高校教育改革の取組	(2)「新県立高校科来構想」期間中の主な動き						
	①県立高校教育の在り方						
	ウ 地域のニーズに応える高校づくり	・県民大学や多部制単位制での科目履修制度に関して、教職員の負担にならないよう県教委のサポートが必要である。(太白区・男性・60代)	・県民大学や多部制単位制での科目履修制度に関して、教職員の負担にならないよう県教委のサポートが必要である。	・教職員の負担とならないよう配慮してまいります。			
	エ 教育環境の充実等	・現場では、スクールカウンセラーとスクールソーシャルワーカーの役割の違いがよく理解されていないことから、「生徒の心に働きかけるスクールソーシャルワーカーや生徒の生活環境に働きかけるスクールカウンセラー」の配置など違いを簡潔に説明する表現を加えてはどうか。(青葉区・男性・60代)	・スクールカウンセラーとスクールソーシャルワーカーの役割の違いを簡潔に説明する表現を加えるべき。	・用語の意味を明確にするため、「スクールカウンセラー」及び「スクールソーシャルワーカー」についての説明を追加します。			
	②学科編成・学校配置						
	イ 定時制・通信制	・通信制高校における指導は学習指導が大部分を占めていることから、設置目的については、「学習指導」と「生活指導」を並列とせず、「多様な学習ニーズにきめ細かく対応し、本県における通信制高校教育の一層の充実を図るため」としてはどうか。(青葉区・男性・60代)	・通信制高校の設置目的は、「学習指導」を中心に記載すべき。	・現状をより分かりやすく記載するため、「また、通信制の独立校として平成24年4月に美田園高校を設置しました。美田園高校では、生徒の多様な学習ニーズなどにきめ細かく対応するため」と表記を修正します。			
		・「スクーリング」、「レポート」という表現は法令に則った表現ではないことから、「面接指導」及び「報告課題」を使った方がよい。(青葉区・男性・60代)	・「スクーリング」、「レポート」という表現は法令に則った表現ではないことから、「面接指導」及び「報告課題」に改めるべき。	・用語使用の正確を期すため、スクーリングを「面接指導(スクーリング)」、レポートを「報告課題(レポート)」と一部修正します。			
		・石巻北高校飯野川校との連携は、高等学校通信教育規程に定められた「定通併修」の仕組みを積極的に活用したということであり、「仕組みを構築」は言い過ぎであり、「有効活用を図った」等表現を改めるべき。(青葉区・男性・60代)	・石巻北高校飯野川校の「定通併修」については、「有効活用を図った」等表現を改めるべき。	・既存の制度を活用して、両校が連携する仕組みを構築したという趣旨で記載しているものです。			
		・第1章2に関して、「宮城県子どもの貧困対策計画」の記載内容について触れられていないが、高校卒業後の進学に関して、家庭環境により差が見られ、学習支援や経済的な就学支援が必要等との記載もあり、内容について触れておいた方が無難ではないか。(青葉区・男性・60代)	・「宮城県子どもの貧困対策計画」の内容について触れるべき。	・「現状と課題」における記載内容については、高校教育に直接的に関係する事項について代表的な事例を記載しております。貧困対策計画の観点については、答申中間案全体として踏まえているところです。			
	第1章 2 高校教育を取り巻く現状と課題	(1) 社会経済環境の変化	・「地球環境に関すること」、「エネルギー問題に関すること」、「食糧問題に関すること」も入れてほしい。(若林区・男性・70代)	・「地球環境に関すること」、「エネルギー問題に関すること」、「食糧問題に関すること」も内容に含めるべき。	・「現状と課題」における記載内容については、高校教育に直接的に関係する事項について代表的な事例を記載しております。		
②人口減少社会の到来		・人口減少社会の到来によって地域がどうなっていくのかについても記述する必要がある。(若林区・男性・70代)	・人口減少社会の到来によって地域がどうなっていくのかについても記述すべき。	・地域の状況はそれぞれ異なることから、その状況に応じて対応していくものと考えております。			
③家庭・地域環境の変化		・貧困格差の問題と勤労者の置かれている現状を記述する必要がある。(若林区・男性・70代)	・貧困格差の問題と勤労者の置かれている現状を記述すべき。	・「現状と課題」における記載内容については、高校教育に直接的に関係する事項について代表的な事例を記載しております。			
		・「学校を地域コミュニティの核として」という記述に関して、全県一学区化の中、地域の核となる学校をどう構想しているのか。(若林区・男性・70代)	・全県一学区化の中、地域コミュニティの核となる学校の在り方をどう位置付けるか。	・少子化が進展する中で、高校は地域と連携しながら地域人材の育成を進める必要があると考えております。			
④グローバル化の進展		・グローバル化の進展の中で、他国の文化だけでなく、貿易や観光、スポーツも含めて理解する姿勢が必要である。(若林区・男性・70代)	・グローバル化の進展の中で、他国の文化だけでなく、貿易や観光、スポーツも含めて理解する姿勢が必要。	・他国の文化の中に広く含まれるものと考えております。			
(2) 県立高校の現状と課題		・通学の状況や貧困格差の実態など生徒一人一人の生活土台についての分析が必要である。(若林区・男性・70代)	・通学の状況や貧困格差の実態など生徒一人一人の生活土台について分析すべき。	・毎年度通学の状況等について把握しているほか、生徒、保護者、教員等を対象とする「県立高校に関する調査」を平成29年度に実施し、関連データの分析を実施しております。なお、貧困格差の実態についての調査は難しいと考えております。			

項目		パブリックコメント			地区別意見聴取会			
		提出意見内容	左記意見の主旨	意見に対する考え方(案)	意見の要旨	左記意見の主旨	意見に対する考え方(案)	
第1章 高校教育を取り巻く現状と課題	2 高校教育を取り巻く現状と課題 (2) 県立高校の現状と課題	①生徒の多様化	<ul style="list-style-type: none"> 多様化した生徒のニーズに応えるために、教育課程の充実や多様な支援を充実させるには、教職員の数を増やし、施設設備の充実を図ることが必要である。(太白区・男性・60代) これからの社会を考えると、多様な生徒がいっしょに学ぶことができる高校が必要になっていると思う。(若林区・男性・70代) 多様化として「LGBT」問題も書き込んでほしい。(若林区・男性・70代) 「共生社会」には、障害を持っている人だけでなく社会的弱者や他国の人も含めて考えてほしい。(若林区・男性・70代) 	<ul style="list-style-type: none"> 多様化への対応として、教職員の数や施設設備の充実を図ることが必要である。 多様な生徒が共に学ぶことができる高校が必要になっている。 多様化として「LGBT」問題も書き込むべき。 「共生社会」には、障害を持っている人だけでなく社会的弱者や他国の人も含めて考えてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 教職員数については国の基準に基づき、学校の実情に配慮しながら適切に配置していくとともに、施設設備については、各学校の実情に合わせて効率的に整備してまいりたいと考えております。 多様な生徒が共に学ぶ環境づくりは必要であると考えており、答申中間案の17ページ③イでインクルーシブ教育システムの充実等について記載しているところです。 生徒の多様化に関してきめ細かな対応や対策が必要と考えており、多様化に含めて考えております。 答申中間案6ページ①では、高校教育の課題との関連から、インクルーシブ教育に限定して記載しているものです。 	<ul style="list-style-type: none"> 自閉症や情緒障害を持った生徒の受け入れ先、進学先がなく、かなり難しい状況である。(栗原地区) 不登校生徒の進学先や特別な支援を必要とする生徒の受け皿が不足している。(登米地区) 自閉症・情緒障害等の生徒は、現状として、定時制高校や通信制高校に進学することが多い。(気仙沼・本吉地区) 自閉症・情緒障害等の生徒は、進学先の高校で教科の学習に加えて、社会性等についても学び、将来の就労への準備をしている。(気仙沼・本吉地区) 支援を要する子どもが年々増えてきているので、特別支援学校を増やすなど受け入れ先を確保してほしい。(栗原地区) 特別な支援を要する生徒が増えている現状を踏まえ、社会性・自立を図るための手立てや特別な教育課程等についても考えていかなければならない。(気仙沼・本吉地区) 	<ul style="list-style-type: none"> 自閉症・情緒障害等を持った生徒の進学先について苦慮している。定時制・通信制高校に進学する場合は多い。 進学先の高校では、教科学習だけでなく社会性についても学んでいるようだが、特別な支援を要する生徒が増えている現状を踏まえ、受け入れの確保や特別な教育課程等についても考えていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 答申中間案16ページ(2)①、②、③に記載のとおり、定時制・通信制に限らず全日制の高校においても知的障害がない自閉症・情緒障害の生徒に対する教育課程の工夫や、通級による指導の活用等を検討していく必要があると考えております。 答申中間案17ページ②、③に記載の趣旨のとおり、特別な配慮が必要な生徒に対しては、個別の支援計画や特別な教育課程の編成など、個に応じた指導を推進するとともに、新たなタイプの学校についての設置も検討してまいります。
		③ICTの進展				<ul style="list-style-type: none"> 機器の整備も含めて教員がどのようにICTを活用していくのかという視点が必要である。(中部地区) 	<ul style="list-style-type: none"> ICT機器の整備とともに、教員がどのように活用していくのかという視点が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ICT環境整備を進めるとともに、「第2期みやぎの教育情報化推進計画」に基づく各種研修を実施し、教員のICT活用指導力の向上を図っていくことから、答申中間案7ページ③の記載に「各種研修を通して」の文言を追加します。
		④不登校・中途退学者への対応	<ul style="list-style-type: none"> 宮城県で大きな問題となっている多数の不登校生徒と全日制高校中退者の受け入れを定時制や通信制高校に負担させようとしていると感じられるが、その負担に答えられる体制づくりが必要である。(太白区・男性・60代) 「地域の保健福祉部門」ではなく、「保健師」と明記した方が分かりやすく、「地域の保健師さらに医療・保健・福祉・労働の各部門」としてはどうか。(青葉区・男性・60代) 	<ul style="list-style-type: none"> 定時制や通信制高校が不登校生徒と全日制高校中退者の受け入れができるような体制づくりが必要である。 「地域の保健福祉部門」ではなく、「保健師」と明記した方が分かりやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> 不登校経験者や中途退学者が学ぶ環境づくりは必要であると考えており、定時制・通信制課程も含め、体制づくりを検討してまいります。 答申中間案では、関係機関の連携という趣旨から、連携機関の名称で記載しております。 	<ul style="list-style-type: none"> 不登校生徒が学び直しにじっくり取り組み、自己肯定感を得て自らの志を意識できるようになるために必要な時間をじっくりかけられるような教育や指導ができる環境を高校の中につけてほしい。(大崎地区) 不登校生徒や特別な支援を必要とする生徒に対して個々に応じたきめ細かな対応ができるような高校が望まれている。(登米地区) 小中学校で不登校だった子どもたちが安心して進学できる仕組みづくりに取り組んでほしい。(大崎地区) 	<ul style="list-style-type: none"> しっかり学び直しができ、自己肯定感を得ることのできる環境整備が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 自己肯定感を育むことは重要な視点であることから、答申中間案7ページ④の記載を「生徒一人一人の自己肯定感の涵養や自己実現を積極的に支援していく体制づくりが必要」と修正します。また、学び直しの環境整備に向けての検討を進めてまいります。
		⑤新学習指導要領への対応	<ul style="list-style-type: none"> 18歳成人に関する事項を取りあげてほしい。(若林区・男性・70代) 	<ul style="list-style-type: none"> 18歳成人に関する事項を入れるべき。 	<ul style="list-style-type: none"> 選挙権年齢及び成年年齢の引下げについては、高校教育改革の重要な視点であることから、「成年年齢が18歳に引き下げられることを踏まえ、選挙権年齢の引下げと併せて、よりよい社会作りや参画し未来を創造する担い手となる資質・能力の育成を図る必要があります」という記述を追加します。 	<ul style="list-style-type: none"> 成人年齢が18歳になるが、将来構想の中では全く触れられていない。(南部地区) 	<ul style="list-style-type: none"> 成人年齢が18歳になることについて将来構想の中では触れられていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 選挙権年齢及び成年年齢の引下げについては、高校教育改革の重要な視点であることから、「成年年齢が18歳に引き下げられることを踏まえ、選挙権年齢の引下げと併せて、よりよい社会作りや参画し未来を創造する担い手となる資質・能力の育成を図る必要があります」という記述を追加します。
		第3章	1・2 本県高校教育の目指す姿	<ul style="list-style-type: none"> 第3章1.2から考えると、全県一学区化ではなく小学区制として多様な生徒が学ぶことのできる高校を作る必要がある。(若林区・男性・70代) 	<ul style="list-style-type: none"> 記述内容から全県一学区化ではなく小学区制として多様な生徒が学ぶことのできる高校を作るべき。 	<ul style="list-style-type: none"> 全県一学区の下で、多様な生徒が学ぶことができるような特色ある学校づくりが必要であると考えております。 		
第4章	1 未来を描き高い志を持つ人づくり 高校教育改革の取組	(1)教育内容の充実 ①志教育の更なる推進	<ul style="list-style-type: none"> 「高い志」については触れられていないが、普通の志と高い志とはどう違うのか。(若林区・男性・70代) 普通の志と高い志とはどう違うのか。 	<ul style="list-style-type: none"> タイトルについては、目指すべき方向性を明確にするため「高い」と表記したものです。 	<ul style="list-style-type: none"> 自らの力で自らの才能を存分に発揮して輝き、社会を豊かなものにしていくためにも、志教育の理念は今後もぜひ推進してほしい。(大崎地区) 小中学校でも推進している志教育は、高校でも必要である。(石巻地区) 志教育を今後重点事項としてより精査し、具体的な学年の取組に反映されるとよいと思う。(石巻地区) 進路指導部の中にキャリア教育担当が入ることで、キャリア教育と進路が一体となって充実していくと思う。(中部地区) 	<ul style="list-style-type: none"> 志教育は重要であり、今後も是非推進してほしい。 インターンシップや出前講座は、地域の産業や企業の魅力を知る大切な機会であり、積極的に取り入れてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 答申中間案11ページ①に記載のとおり、現在進めている志教育の取組に、様々な視点を加え、より一層推進してまいります。 答申中間案13ページ①に記載の趣旨のとおり、地域の産業や企業、大学等との連携を推進し、取組を進めてまいります。 	

項目		パブリックコメント			地区別意見聴取会			
		細項目	提出意見内容	左記意見の主旨	意見に対する考え方(案)	意見の要旨	左記意見の主旨	意見に対する考え方(案)
第4章 高校教育改革の取組	1 未来を担う高い志を持つ人づくり	①志教育の更なる推進				<ul style="list-style-type: none"> ・何のために学び、どんな力を身に付け、何が出来るようになるのかを教員が意識し、教育目標を立てて共有し、そのための環境づくりを行う必要があり、キャリア教育が重要であると考えている。(中部地区) ・学生が希望を持つように、普通のインターンシップではなく、自ら目標を掲げる企業との接触を増やす取組をしてほしい。(石巻地区) ・キャリア教育を実践するには、まずは教員が何のために教員になり、どんな生徒を育て、どんな力を育みたいと思っているのかを考える必要がある。(中部地区) ・現実社会で生き抜くための教育として、キャリア教育やインターンシップなどは非常に効果的であり、地元企業にとっても有益である。(気仙沼・本吉地区) ・勉強したことが自分の人生・将来にどうつながっていくのかを様々な教育活動の中で実感する機会を設けられるとよい。(中部地区) ・なぜ学ぶのかを理解する機会を確保するため、職業体験や企業訪問、人生経験者の講話等の実体験が多くあるとよい。(中部地区) ・社会経験豊富な講師を確保してほしい。社会で活躍されている方や第一線を退いた方のスキルは高い。(気仙沼・本吉地区) ・地元海外進出企業による学校への出前教育の実施があるとよい。(南部地区) ・高校のOB・OGによる体験談の演説やブース形式での面談の実施があるとよい。(南部地区) ・県内の小中学生や高校生の地域産業を考慮した職業教育が十分でないように感じる。地域企業への社会見学や実習等の経験を多くし、充実した内容にしてほしい。(大崎地区) ・企業が求める人物像は、社会人としての基本的思考力、主体性、行動力、想像力、基本態度を持つ能力等が備わった人材。高校では、その下地をつくってほしい。(南部地区) ・地域の産業を意識しながら、工業高校ばかりではなく、普通高校においても出前講座やインターンシップ等の取組を行ってほしい。(大崎地区) ・インターンシップが地元の魅力を知る機会、重要な場、体験であると感じている。(気仙沼・本吉地区) ・インターンシップや出前授業など、授業の中でその地域の企業のことをもっと強く意識させる試みや時間の確保が大事である。(大崎地区) ・特に専門学科で学ぶ生徒のインターンシップに力を入れ、地元産業をもっと知ることを大事にしてほしい。(気仙沼・本吉地区) ・今のインターンシップや職場体験等は、学校からの意図的なインプットとして選択肢が広がっていないと感じる。高校生が学びの場や職場体験、産業などに触れながら選択して行動できる機会が開けるとよい。(気仙沼・本吉地区) ・地域の先輩が活躍している話を聞き、いろいろな方と交流することによって、職業観に対する考え方や、様々な気づきがあると思う。(気仙沼・本吉地区) ・なりたい職業に偏りもあると思うので、3年間に必ずいくつかの職業に触れるようなことが必要と思う。(登米地区) ・小中学生は仕事に興味を持つことに意味があると思うが、高校で学力が付いた時に初めて開ける職業がある。現実的に考える高校時代に、どんな未来が開けているかを考える機会がほしい。(登米地区) ・自らが社会の一員であることを認識させ、半ば強引にでも社会に参画させ、地域コミュニティとの関わり合いを持てるプログラムが必要である。志教育の中に、身近な地域に参加できるプログラムを組み入れるような取組をしてほしい。(大崎地区) 		

		パブリックコメント			地区別意見聴取会		
項目	細項目	提出意見内容	左記意見の主旨	意見に対する考え方(案)	意見の要旨	左記意見の主旨	意見に対する考え方(案)
1 第4章 未来を担う高い志を持つ人づくり （1）教育内容の充実 高校教育改革の取組	②基礎・基本の徹底と発展的な学習の推進				<ul style="list-style-type: none"> 企業が生徒に求めることは、コミュニケーション力の前に、挨拶や読み書きそろばんである。学校で基礎的能力を身に付けてほしい。（中部地区） 競争社会の中で生きていくには、学校で基礎学力や基礎体力を身に付けておく必要性を理解してほしい。（南部地区） 	<ul style="list-style-type: none"> 学校で基礎的能力を身に付けてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 基礎・基本の徹底については、答申中間案11ページ②、③、④に記載しておりますが、各教科・科目の学習や特別活動、総合的な学習の時間等において、学力、体力のほか、社会人として求められる基本的な資質・能力の育成に努めており、今後とも「徳・体バランスのとれた生きる力の育成を推進してまいります。」
	③「主体的・対話的で深い学び」の実現				<ul style="list-style-type: none"> 参加型学習や体験型学習を取り入れることで、基礎・基本の徹底、発展的な学習の推進、主体的・対話的で深い学びの実現、課題解決能力の育成を実現してほしい。（南部地区） 自分の思いを素直に表現できる空間をつくり、地元に触れ地元を知る時間をつくった上で、主体的にチャレンジし評価される。そしてここで何か新しいことを始められるのではないかと実感を得ると言うことが今後社会に出てくる者にとって必要な経験や時間だと感じる。（気仙沼・本吉地区） 主体性を身につけることが学力向上や郷土愛にも深くつながってくると考えているが、このような学びの場を提供するのは高校だけでは不十分であると思う。（気仙沼・本吉地区） 	<ul style="list-style-type: none"> 課題解決力を参加型・体験型学習を取り入れ、発展的な学習を推進し、主体的・対話的で深い学びと課題解決能力の育成を実現してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 課題解決能力や発展的な学習、「主体的・対話的で深い学び」については、答申中間案11ページ②、③、④に記載しておりますが、創造的な課題発見・課題解決のための学習、大学と連携した発展的な学び等「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善や学習評価法の工夫・改善などに努めてまいります。
	④課題解決能力の育成				<ul style="list-style-type: none"> 「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業づくりを推進する」に関して、知識の詰め込みに価値を置いていた時代から、知識やスキルを活用して情報を正しく判断する力と問題解決の力が必要な時代に入ってきたから、主体的・対話的で深い学びが求められ必要とされているという点についての記述がなく、現場まで落とし込まないとなかなか実現できないと思う。（大崎地区） 高校生の現状を見て思うのはインプットの時間はあるが、ゆっくと話を聞いてもらう、自分の思いを表現でき、伝えることができる機会が実は少ないのではないか。（気仙沼・本吉地区） 政治経済教育の進化、今の生きた政治経済が自分たちに与える影響を自ら考える機会があるとよい。（南部地区） 	<ul style="list-style-type: none"> 「主体的・対話的で深い学びの実践に向けた授業づくり」の趣旨等に関する記述がない。 	<ul style="list-style-type: none"> 高校教育を取り巻く現状と課題については、答申中間案5ページ2に記載のとおりですが、授業づくりについては、各学校の実情に応じて、適切に推進するよう努めてまいります。
⑥国際教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> 目指す人づくりの方向性にある「国際感覚豊かな人材」をどのように育成するのが見えず、明確にしてほしい。（若林区・男性・70代） 	<ul style="list-style-type: none"> 「国際感覚豊かな人材」の育成方法を明確にすべき。 	<ul style="list-style-type: none"> 答申中間案においては、人づくりの方向性を記載しているところであり、具体的内容は、事業実施に際して明らかにしてまいります。 	<ul style="list-style-type: none"> 競争社会の中で生きていくには、国際感覚を身に付けておく必要性を学生に理解してほしい。（南部地区） 情報化、グローバル化が進展し、我々の価値観も多様化している状況を踏まえ、地域と日本の未来を支える国際的な視野と志を持った新たな人材育成を推進する教育が今後ますます必要である。（気仙沼・本吉地区） グローバル化の進展に伴い、国際感覚や言語、文化、多様性を理解でき、発信できる能力の育成に力を入れてほしい。（気仙沼・本吉地区） 国際人を育てることが求められるが、確実に力を付けて展望を広げ、さらにそれを活かせる環境があるとよい。（気仙沼・本吉地区） 	<ul style="list-style-type: none"> 国際感覚を身に付ける必要性を学生に理解してほしい。 国際感覚や言語、文化、多様性を理解し、国際的な視野と志を持った人材育成を推進する教育が今後ますます必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 答申中間案12ページ⑥に記載のとおり、グローバル社会の進展に対応できる英語力、コミュニケーション力を育むとともに、異文化理解について推進してまいります。 	

		パブリックコメント			地区別意見聴取会			
項目	細項目	提出意見内容	左記意見の主旨	意見に対する考え方(案)	意見の要旨	左記意見の主旨	意見に対する考え方(案)	
1 未来を担う高い志を持つ人づくり 第4章 高校教育改革の取組	⑦防災教育・安全教育の推進				<ul style="list-style-type: none"> ・大震災での辛い経験や学び、思いを今後輩たちにどうつないでいくのが課題である。(石巻地区) ・震災により、多くの交流による社会性やコミュニケーションの高まりなど、得たものも大きい。(気仙沼・本吉地区) ・いろいろな学校で、語り部など高校生も一生懸命向き合っているが、震災を風化させない取組を考えて欲しい。(気仙沼・本吉地区) ・大震災など大きな問題に直面したときは、それを乗り越えるための知識や行動力、コミュニケーション能力が必要である。(気仙沼・本吉地区) ・被災地においては、心のケアの問題に対応することも必要であるが、引っ張っていく子どもを育てることも積極的に考えてほしい。(気仙沼・本吉地区) ・宮城の復興を担う産業人材の育成や復興活動への参画推進を踏まえ、震災を後世につなぐ取組を高校でも実践してほしい。(大崎地区) ・現場の先生方は、震災の経験による子どもたちのPTSD(心的外傷後ストレス障害)を感じているので、それを忘れずに対応を進めてほしい。(石巻地区) ・震災や防災等の学びについては、沿岸部だけでなく内陸部での意識が進むとありがたい。(気仙沼・本吉地区) 	<ul style="list-style-type: none"> ・大震災による経験や学び、思いを風化させず、今後どうつないでいくかが重要である。 	<p>東日本大震災の経験・教訓を踏まえた学びに関しては、答申中間案12ページ⑦に記載のとおりですが、震災の経験を後世に伝える取組や、そのような人材を育成することは本県教育の大きな責務であると考えております。防災副読本「未来への絆」等を用いた防災教育の充実や各種研修会の充実を図り、震災経験の風化の防止めとなる取組を展開してまいります。</p>	
		⑨部活動の質的充実	・施策推進の責任の所在や予算の裏付け等がなく具体的に乏しい。(泉区・男性・50代)	・施策推進の責任の所在や予算の裏付け等がなく具体的に乏しい。	具体的な取組については、「部活動での指導ガイドライン」及び「部活動指導の手引」に基づき進めてまいります。	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動指導の先生の負担が非常に大きいと感じる。別途専門的な技術・経験のある方を採用することを将来的には考えてほしい。(気仙沼・本吉地区) ・部活動を通して、コミュニケーション能力が身に付くと思う。(気仙沼・本吉地区) ・部活動の質の向上を高めるため、専門的でスポーツ科学の視点を活かした取組を期待する。(石巻地区) 	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動の質の向上を高めるため、専門的でスポーツ科学の視点を活かした取組を導入に期待する。 	適切で効果的な指導の内容をより明確にするため、答申中間案12ページ⑨の記載を「科学的な根拠に基づいた適切で効果的な指導」と修正します。また、外部指導者の導入に関しては、現在行っている外部指導者の配置事業を継続していくとともに関係機関と連携し、専門的知識や技能を持った指導者の拡充に努めてまいります。
	②教育環境の充実	①教育相談体制の更なる充実	・スクールカウンセラーとスクールソーシャルワーカーの役割の違いを簡潔に説明する表現を加えてはどうか。(青葉区・男性・60代)	・スクールカウンセラーとスクールソーシャルワーカーの役割の違いを簡潔に説明する表現を加えるべき。	用語の意味を明確にするため、「スクールカウンセラー」及び「スクールソーシャルワーカー」についての説明を追加します。	<ul style="list-style-type: none"> ・教員が生徒と向き合う時間をしっかりと確保できるような体制の整備が必要であり、校務分掌の整理や校内での体制づくりが必要である。(中部地区) ・発達障害に関する相談・対応が増えており、背景にある虐待やいじめの早期発見、予防、対策、適切なアプローチが必要である。(南部地区) ・ドロップアウトしてしまう生徒がいる中で、中高連携や地域全体で子どもたちを見守り育てていく仕組みづくりが急務である。(中部地区) 	<ul style="list-style-type: none"> ・教員が生徒と向き合う時間を確保できる体制整備や、虐待やいじめの早期発見、予防、対策、適切なアプローチが必要である。 ・中高連携や地域全体で子どもたちを見守り育てていく仕組みづくりが必要である。 	いじめ等の諸問題への対応に関しては、答申中間案12ページ①に記載しておりますが、いじめ等諸問題の早期発見・対応等について、教員が生徒と向き合う時間の確保と教員の資質能力の向上の両面から検討してまいります。
		②優れた教員の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・教員に限定せず、「優れた教職員の確保」とした方がよいのではないか。(青葉区・男性・60代) ・どのように実現するのか不安を感じる。(泉区・男性・50代) 	<ul style="list-style-type: none"> ・教員に限定せず、教職員とすべき。 	<ul style="list-style-type: none"> ・答申中間案12ページ②では、教員に特化して記載しているものであり、教育公務員特例法の一部改正を受けてH30.3に策定した、教員としての資質能力の向上に関する指標である「みやぎの教員に求められる資質能力」を踏まえて教員採用選考や教員研修を実施してまいります。 ・教員またはスクールソーシャルワーカーのそれぞれの深い専門性を活かした対応を行うという理由から、それぞれの役割や連携を深める研修を深め、細やかな対応を行うことがよいのではないかと考えております。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人工知能(AI)の発達など社会のニーズの激変に対応するために教員の育成も必要である。(南部地区) ・高校教育改革を推進するにはどのような人材が必要かという視点がある。(中部地区) ・多種多様な家庭と生徒、幅広い層と関わるため、教職員に最も重要になるのはヒューマンスキルである。教職員が高い志とヒューマンスキルを持つことが重要である。(登米地区) ・今後10年間で先生たちにどう変わってほしいのかを押さえてほしい。(中部地区) ・生徒の育成は図られているが、教職員の育成が抜けているのではないかと。(登米地区) ・教員の更なる資質向上と宮城県教員研修マスタープランに期待する。(気仙沼・本吉地区) 	<ul style="list-style-type: none"> ・激変する社会や多様な家庭・生徒に対応するためには、コーチングスキル、ファシリテーションスキル、ヒューマンスキル、カウンセリングスキル等の習得による教員の育成が必要である。 ・進路指導する教員には、インターンシップ研修を実施し、企業のことをより理解する必要がある。 	<p>H30.3に策定した「みやぎの教員に求められる資質能力」に基づき、今後の宮城県の学校に求められる教育の在り方を踏まえつつ、これまでの実践のうち一層発展させていくべきものや新しい取組が必要なものを検討します。専門性の高い人材を社会的な視野で育成し、多様な家庭や生徒への対応を行うことで、適切な対応ができると考えております。</p> <p>答申中間案16ページ②ウに記載のとおり、企業等との一層の連携を進め、理解を促進することで、より適切な進路指導につながることを考えております。</p>

		パブリックコメント			地区別意見聴取会		
項目	細項目	提出意見内容	左記意見の主旨	意見に対する考え方(案)	意見の要旨	左記意見の主旨	意見に対する考え方(案)
2 未来を拓く魅力ある学校づくり	②優れた教員の確保				<ul style="list-style-type: none"> ・教職員がまず高い志を持ち、高いヒューマンスキルを持つことが一番重要である。(登米地区) ・キャリア教育を理解する研修の充実や教員がチームとなって動けるチームビルディングができればよいと思う。(中部地区) ・教員の研修もアクティブラーニング型にしていく必要がある。(中部地区) ・教員は、コーチングスキル、多様な生徒に対応するためのカウンセリングスキル、授業をアクティブラーニング型にするためのファシリテーションスキルが必要である。(中部地区) ・先生のコーチング力が大事。個々の力を引き出してくれる力を身に付けてほしい。(登米地区) ・進路指導する教員に企業のことをもっと知ってほしい。教員にこそインターンシップが必要である。職場体験の研修を企画してほしい。(中部地区) ・管理職に教職員をマネジメントするマネジメントスキルがあるのか、人的資源をどこまで開花させ、活用できているのか、人材育成に関わる目標管理は欠かせない。(登米地区) ・教員の人材育成に対しては、もう少し掘り下げて、具体的なレベルまで落とし込んで行った方が現場に入りやすいと思う。(登米地区) ・教員が時代に遅れていると感じる。一人一人の教員を伸ばしていかなければ、生徒も伸びていかないのではないかと感じる。(中部地区) 		
	③計画的な施設・設備の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・「様々な生徒のニーズに対応した学校施設の計画的な整備」の具体的な例示があるとよい。(青葉区・男性・60代) 	<ul style="list-style-type: none"> ・計画の具体的な例示があるとよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各学校の要望等も十分に踏まえた上で、実施するものと考えており、個別に対応してまいります。 	<ul style="list-style-type: none"> ・きれいなトイレや学年単位で集まることができる大講義室、ワークショップができる教室の整備を進めてほしい。(中部地区) 	<ul style="list-style-type: none"> ・トイレや大講義室、ワークショップができる教室の整備を進めてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・施設・設備の整備は、各学校の施設の状況やニーズ、授業カリキュラム等の実情に合わせた整備を行う必要があると考えております。
	(1)社会的ニーズに応じた高校、学科の在り方	<ul style="list-style-type: none"> ①学科等の在り方 	<ul style="list-style-type: none"> ・予算措置や人的配置等を含めて可能なのか。むしろ選択の幅を限定し、質の向上を図るべき。(泉区・男性・50代) ・進学校であっても、就職等に対応できる体制を作るべき。(県外・男性・30代) 	<ul style="list-style-type: none"> ・選択の幅を限定し質の向上を図るべき。 ・進学校であっても就職等に対応できる体制を作るべき。 	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な生徒に対応するため、一定の選択枝は必要と考えております。 ・進学校においても、インターンシップを充実させキャリア教育の推進を図ることとしております。 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会的ニーズに応じた魅力ある高校づくりを進めてほしい。(南部地区) ・普通高校でも観光や商業にかかわるビジネス観光科や、昨年南三陸町で取得したFSC(森林認証)とASC(水産養殖認証)などの世界認証を踏まえた学習ができる科、IT社会における各種産業を学べるグローバルIT科というような学科があれば面白いのではないかと。(気仙沼・本吉地区) ・誘致した企業に勤務する優秀な人材を育成することが地元高校の役割ではないかと。(栗原地区) ・10年後の将来を支えていく高校生に対して、なくしてはいけない学科や専門課程、カリキュラムがあると思う。(気仙沼・本吉地区) ・農林水産に関する学科に目を当てて、将来この地域や日本を担う人材を育成することを考えてほしい。(気仙沼・本吉地区) ・農業を産業基盤としている市に農業科がないはどういうことなのか疑問に感じる。(栗原地区) ・農業系と工業系の融合などの学科の充実を望む。(南部地区) ・専門学科では専門知識や技術の習得と併せて、それぞれの社会的な役割や重要性を生徒自身に考えさせる機会を持ってほしい。(南部地区) ・人とコミュニケーションを取り、人の話を聞き、理解し、行動に移し、自分の考えや意見を話すことなど、職業人として必要な能力を持つ人材を育てる専門学科が必要であり、社会のニーズに対応できる人材へつながる。(中部地区) ・高校で経営学を学べると面白いのではないかと感じる。(気仙沼・本吉地区) ・地域課題の解決策を探る学びの場が、シチズンシップ、シティプライドの醸成につながることから、総合学科の中に地域のことをさらに深く学ぶ「地域学科」のような学科の設置を検討してほしい。(大崎地区) 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会的ニーズに応じた学科を設置し、魅力ある高校づくりを進めてほしい。
	イ 専門学科	<ul style="list-style-type: none"> ・専門学科の大学等への進学も含めた多様な進路希望への対応についてのより具体的な計画がほしい。(若林区・男性・70代) ・設置学科によっては、社会のニーズに合っていないものもあることから、特に専門高校における学科の在り方を再考すべき。(宮城野区・男性・40代) 	<ul style="list-style-type: none"> ・専門学科の大学等への進学も含めた多様な進路希望への対応についてのより具体的な計画を記載すべき。 ・社会のニーズを勘案し、特に専門高校における学科の在り方を検討すべき。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各校がそれぞれの実態に即したカリキュラムマネジメント等に対応しております。 ・答申中間案14ページ①イの記載のとおり、地域の事情や地域産業の状況も踏まえて、引き続き検討してまいります。 	<ul style="list-style-type: none"> ・農林水産に関する学科に目を当てて、将来この地域や日本を担う人材を育成することを考えてほしい。(気仙沼・本吉地区) ・農業を産業基盤としている市に農業科がないはどういうことなのか疑問に感じる。(栗原地区) ・農業系と工業系の融合などの学科の充実を望む。(南部地区) ・専門学科では専門知識や技術の習得と併せて、それぞれの社会的な役割や重要性を生徒自身に考えさせる機会を持ってほしい。(南部地区) ・人とコミュニケーションを取り、人の話を聞き、理解し、行動に移し、自分の考えや意見を話すことなど、職業人として必要な能力を持つ人材を育てる専門学科が必要であり、社会のニーズに対応できる人材へつながる。(中部地区) ・高校で経営学を学べると面白いのではないかと感じる。(気仙沼・本吉地区) ・地域課題の解決策を探る学びの場が、シチズンシップ、シティプライドの醸成につながることから、総合学科の中に地域のことをさらに深く学ぶ「地域学科」のような学科の設置を検討してほしい。(大崎地区) 		

		パブリックコメント			地区別意見聴取会		
項目	細項目	提出意見内容	左記意見の主旨	意見に対する考え方(案)	意見の要旨	左記意見の主旨	意見に対する考え方(案)
第4章 高校教育改革の取組	(一) 社会的ニーズに応じた高校・学科の在り方	②他機関との連携					
		ア 地域の教育機関との連携の在り方			<ul style="list-style-type: none"> ・小中学校のときにどのような経験をしたかということが、高校での主体的な学びに接続していく重要なポイントである。(気仙沼・本吉地区) ・小中学校との連携を強化し、保護者も含めて高校進学の意味を子どもたちに知ってほしい。(中部地区) ・川崎町のように、地域の小中高連携の充実による、一人一人の個性や特性に応じたきめ細かい丁寧な指導をしてほしい。(南部地区) ・小中高連携には県と市町村の連携が必要であるとともに、行政や学校では縦割りではなく横断的な取組が必要である。(中部地区) ・小中高大連携が絶対必要である。(中部地区) ・私立学校との連携は新しい視点の取組だと思う。(中部地区) ・私立学校との協調とバランスを考える必要がある。民間の力を削ぐようなことをしてはいけない。(気仙沼・本吉地区) ・大学進学やスポーツの競技力向上等のため県内外の私立高校を選択する生徒もいる。(登米地区) 	<ul style="list-style-type: none"> ・小中学校での学びが、高校での主体的な学びにつながっていく。 ・小中高連携には、県と市町村の連携が必要である。 ・私立学校との協調とバランスを考える必要がある。 	<p>答申中間案15ページ②アに記載のとおり、教育は、各学校の段階において完結するものではないため、異なる学校段階にわたって教育を見直し、円滑な各学校種間の連携・接続に向けた取組を推進する必要があると考えております。</p> <p>答申中間案15ページ②アに記載のとおり、公立高校と私立高校が協調して教育環境の整備を図ることとしております。また、これまでも人事交流や研修等において連携しているところであり、引き続き進めてまいります。</p>
		イ 大学等との連携の在り方	<ul style="list-style-type: none"> ・高専には特別支援教育のノウハウが蓄積されていることから、大学、大学等との連携に加え高専との連携を入れた方がよい。また、生きづらさを抱えた生徒については、大学の特別支援センター等にしっかり情報をつなげていく連携が必要になる。(青葉区・男性・60代) ・高大連携はうまく機能していないと思われるので、現状を交えて記載すべき。(泉区・男性・50代) ・宮農短大が廃止され宮城大学になったが、農業高校と関係はどうなっているのか。(若林区・男性・70代) ・高大接続の真のねらいは戦後教育制度を転換して戦前の複線型教育を再興しようとするものであり疑問を感じる。(名取市・男性・60代) 	<ul style="list-style-type: none"> ・大学、大学等との連携に加え高専との連携を入れるべき。 ・高大連携の現状を検証の上、記載すべき。 	<ul style="list-style-type: none"> ・高専は「大学、大学校等」に含まれるものと考えます。なお、仙台高専と教育委員会とは包括連携協力協定を結んでおり、多様な観点で連携を行うことができると考えております。 ・各高校において様々な取組を行っていること認識しており、引き続き適切に実施してまいります。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい授業づくりを目指す手段として、大学の特徴を活かした連携はどうか。(南部地区) 	<ul style="list-style-type: none"> ・大学の特徴を活かした連携はどうか。
ウ 地域や企業等との連携の在り方				<ul style="list-style-type: none"> ・地域の魅力を生徒が自ら生み出し、発信していけるような取組を行政と学校と産業界が連携して行っていこうと思う。(気仙沼・本吉地区) ・地域づくりも含めて、学校に設置される地域パートナーシップ会議がうまく機能してほしい。(中部地区) ・どういう子どもたちを育てていくかについて、地区別に、企業や保護者、地域の方々、小中高の教員が同じテーブルで議論する場が必要である。(中部地区) ・教育は小中高大それぞれだけでは完結しない。企業も入り、生涯教育として人を育てていく必要がある。(中部地区) ・教育と雇用が連携した人材育成をしてほしい。(大崎地区) ・地域の関係機関や産業、研究機関等を通して学ぶ機会があれば、学習意欲の向上につながるともに、このような教育資源の活用が、新たな出会いにつながるものと思う。(気仙沼・本吉地区) ・地域や地元企業との連携を深めて協力を得ながら、教育課程の編成をしていく必要があるのではないか。(気仙沼・本吉地区) ・学校の中だけでは地域とつながる力がまだ弱い。生徒一人一人の個性に合わせて深い学びの機会を提供するには、高校教員だけでは負担が大きすぎる。(気仙沼・本吉地区) ・親の所得と子どもの学力はある程度比例性がある面を考えると、学校・教育現場だけではなく、産業界との連携も必要である。(石巻地区) 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域や企業等との連携により、地域にある教育資源や人材を活用した教育活動を展開することができることから、より一層の連携が必要である。 	<p>答申中間案16ページ②ウの記載のとおり、地域パートナーシップ会議等の設置による取組を進めてまいります。</p>	

		パブリックコメント			地区別意見聴取会			
項目	細項目	提出意見内容	左記意見の主旨	意見に対する考え方(案)	意見の要旨	左記意見の主旨	意見に対する考え方(案)	
第4章 未来を拓く魅力ある学校づくり 高校教育改革の取組	(一) 社会的ニーズに応じた高校・学科の在り方	ウ 地域や企業等との連携の在り方			<ul style="list-style-type: none"> ・教育は、学校だけでは完結できず、今後は統括コーディネーターや地域コーディネーターが必要となってくるため、是非NPOの文言を入れてほしい。(大崎地区) ・コミュニティ・スクールの導入について、小中高が連携した取組を行えば、12年間を見通した学習指導や生徒指導ができるものと期待する。横の連携のためのコーディネーターや運営者の育成が必要である。(石巻地区) ・学校経営力の向上につながるコミュニティ・スクールの導入は、健全で、安心・安全かつ効果的に教育活動が行われているかを保護者が見るのに大事である。(気仙沼・本吉地区) ・コミュニティ・スクールの導入においては、学校運営協議会委員一人一人が人脈を活かして、学校ボランティアに参加してもらうよう呼びかける必要がある。(石巻地区) ・学校と地域をつなげるコーディネーターとしての役割というものが学校の中にも外にも必要。同時にそのような学校の体制をサポートする体制が地域の中につくることができれば、学校と地域が繋がっていくためのヒントになるのではないかと感じる。(気仙沼・本吉地区) ・学校に就職支援員や情報化支援員、地域との連携を図るためのコーディネーター等の人材を配置する予算を確保してほしい。(中部地区) ・就職に関して、進路指導の切り口よりは、キャリア教育の充実を図れ、地元の企業としっかり連携が取れるコーディネーターを配置してほしい。(中部地区) 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域との連携には、NPOとの関わりも必要となってくるので、NPOという文言を入れてほしい。 ・コミュニティ・スクールの導入は、小中高が連携した取組を行うことにより、12年間を見通した学習指導や生徒指導が可能となるため、期待できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・連携先をより明確にするため、答申中間案16ページ②ウ、地域や企業等との連携に「NPO」を追加します。 ・答申中間案16ページ②ウの記載のとおり、小・中・高等学校の連携・接続に留意しながら、地域の人々と目標を共有し、地域と一体となって子供たちを育てていくには、コミュニティ・スクールの導入は有効であると考えており、検討を進めてまいります。 	
		2 (2)学びの多様化への対応			<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の多様なニーズへの対応について、より一層の取組を期待する。(中部地区) ・家庭環境も個性も様々な状況の中で、学びの多様化に柔軟に対応してほしい。(中部地区) ・生徒の特性を活かす教育を今後進めていくことが必要である。(中部地区) 	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な生徒に対し、生徒の特性を活かし、個々に応じたきめ細かな対応ができるよう、充実した教育を進めてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学びの多様化への対応については、答申中間案16ページ(2)に記載のとおりですが、生徒の多様なニーズへの対応については再編整備計画において具体化してまいります。 	
	①定時制課程・通信制課程の在り方	ア 定時制課程の在り方	<ul style="list-style-type: none"> ・単位制の導入は、教員の授業時間を増やすものであり、制度の導入に当たっては、各学校の判断を尊重することを明記してほしい。(青葉区・男性・50代) ・定通併修制度については、問題点を整理し、制度の導入に当たっては、各学校の判断を尊重することを明記してほしい。(青葉区・男性・50代) ・定通併修制度の拡充は定時制高校に美田園高校の協力校としての役割を負わせようとする意図が感じられるが、協力校の教員の負担等他県では多くの問題が発生しており、安易な導入は危険である。また、全日制の小規模校が協力校となることで新たな負担が発生することも危惧される。(太白区・男性・60代) ・宮城学力状況調査の解析を行い定時制生徒全体の状況を把握するとともに、生徒の生活実態調査を行い記述してほしい。(青葉区・男性・50代) 	<ul style="list-style-type: none"> ・単位制の導入に当たっては、各学校の判断を尊重することを明記すべき。 ・定通併修制度については、問題点を整理し、制度の導入に当たっては、各学校の判断を尊重することを明記すべき。 ・宮城学力状況調査の解析を行い定時制生徒全体の状況を把握するとともに、生徒の生活実態調査を行い記述すべき。 	<ul style="list-style-type: none"> ・単位制導入も含めた学科改編等については、学校の意向調査を踏まえ実施しているところです。 ・現在実施している制度の成果と課題を踏まえて、具体的な在り方を検討してまいります。 ・具体的な実態調査の結果を踏まえて個別事業を展開してまいります。 	<ul style="list-style-type: none"> ・増加する不登校生徒が行きやすい定時制や通信制高校を減らすことなく維持してほしい。(南部地区) ・学ぶ意欲や意欲が高まった時に、それが可能となる仕組みとして、単位制や定時制の高校は大事であり、単位の共有など高校間での連携が必要である。(石巻地区) ・通信制と定時制の連携により単位の修得をしやすくする等の学びの多様化への対応について、早い段階で進めてほしい。(気仙沼・本吉地区) 	<ul style="list-style-type: none"> ・不登校生徒が行きやすい定時制や通信制高校を減らすことなく維持してほしい。 ・通信制と定時制の連携などによる高校間での単位の共有は必要であるため、早い段階で進めてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・答申中間案16ページ①アに記載のとおり、定時制課程については、全体的なバランスを考慮し適正な配置について検討してまいります。 ・答申中間案16ページ①アに定通併修制度の拡充について記載しておりますが、定通併修制度は、現在研究指定として実施しており、その成果と課題を整理し、より効果的な方法を検討してまいります。
	イ 通信制課程の在り方	<ul style="list-style-type: none"> ・美田園高校の地域スクーリング拠点については、協力校方式ではなく美田園高校の教員数を拡充し拠点校を増設することで対応することを明記してほしい。協力校方式の検討を推し進める場合は、問題点を精査して明示し、各学校の判断に委ねることを明記してほしい。(青葉区・男性・50代) 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域スクーリング拠点については、美田園高校の教員数を拡充し、拠点校を増設することで対応すべき。 ・協力校方式の検討に当たっては、問題点を精査して明示し、各学校の判断に委ねることを明記すべき。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域スクーリング拠点については、拠点の整備や協力校の指定を含めて検討していくこととしており、趣旨が明確に伝わるよう「拠点の増設や定時制高校・全日制高校を協力校として指定することなどを検討します。」と修正します。 ・公立通信制高校は県内に美田園高校(名取市)だけであり、地方の生徒はスクーリングに行くことが難しい。(気仙沼・本吉地区) 	<ul style="list-style-type: none"> ・近くの高校でスクーリングができるようにすることは、とても良い提案である。(気仙沼・本吉地区) ・公立通信制高校は県内に美田園高校(名取市)だけであり、地方の生徒はスクーリングに行くことが難しい。(気仙沼・本吉地区) 	<ul style="list-style-type: none"> ・地方の生徒にとって、近くの高校でスクーリングができれば良い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・答申中間案16ページ①イに記載しているとおり、地域スクーリング拠点の整備について検討してまいります。 	

項目	細項目	パブリックコメント			地区別意見聴取会			
		提出意見内容	左記意見の主旨	意見に対する考え方(案)	意見の要旨	左記意見の主旨	意見に対する考え方(案)	
第4章 高校教育改革の取組	(2) 学びの多様化への対応	イ 通信制課程の在り方	<ul style="list-style-type: none"> 進学校の生徒のニーズにも応えられるよう、生徒一人一人の学習ニーズに応じた教育課程の充実を図る必要がある。(青葉区・男性・60代) 全日制や定時制で通学が困難になった生徒の受け皿として通信制課程を充実するという説明があると分かりやすい。(青葉区・男性・60代) 協力校が実施するのは高等学校通信教育規程上、面接指導と試験等への協力であり、授業を行うわけではないという協力校の位置付けを明確に説明する必要がある。また、場所については、協力校の建物ではなく、公民館などの施設を使用し、日曜日に協力校の教員に実施場所に来ていただくという運用の方が機能する。(青葉区・男性・60代) 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒一人一人の学習ニーズに応じた教育課程の充実を図るべき。 面接指導と試験等への協力という協力校の位置付けを明確にすべき。 拠点校の運用方法を工夫すべき。 	<ul style="list-style-type: none"> 趣旨を明確にするため、「在学中の学習の継続や進路の達成に向けて」及び「生徒一人一人のニーズに対応した個別の支援」と表記を修正します。 用語の意見を明確にするため、「協力校」についての説明を追加します。 制度の成果と課題を踏まえて、具体的な在り方を検討してまいります。 			
		②学び直し等への対応	<ul style="list-style-type: none"> 学び直し等への対応について、個別の学習支援が可能になるよう教員数を確保してほしい。また、学び直し等に対応するカリキュラム編成に際しては、県がモデル教材を作成することを明記してほしい。(青葉区・男性・50代) 通学する生徒の時間的・地理的・経済的条件を十分考慮した計画を示すことを明記してほしい。(青葉区・男性・50代) 「新たなタイプの学校」について具体的に示してほしい。(若林区・男性・70代) 「新たなタイプの学校」についてもう少し説明が必要ではないか。(青葉区・男性・50代) 	<ul style="list-style-type: none"> 個別の学習支援が可能になるよう教員数を確保するとともに、県がモデル教材を作成することを明記すべき。 通学する生徒の時間的・地理的・経済的条件を十分考慮した計画を示すことを明記すべき。 「新たなタイプの学校」について具体的に示すべき。 	<ul style="list-style-type: none"> 個別事業の中で、学びなおしの優れた取組や教材の共有化を行っており、今後、更に広く周知する機会を設けてまいります。 答申中間案18ページ①に記載のとおり、学校の配置に当たっては、生徒の通学等に配慮してまいります。 再編整備計画において具体化してまいります。 	<ul style="list-style-type: none"> 学び直しを希望する生徒や保護者のニーズに対応し、子どもたちの自己肯定感を養うことのできる新たなタイプの学校の設置を期待したい。(大崎地区) 	<ul style="list-style-type: none"> 新たなタイプの学校配置に期待したい。 	<ul style="list-style-type: none"> 再編整備計画において具体化してまいります。
		③特別な支援を必要とする生徒への対応						
		ア 基本的な方向性				<ul style="list-style-type: none"> 知的障害のない自閉症・発達障害等の生徒は、学習する環境も十分に確保されないことにより、学校選択の幅が非常に狭くなる実情があるため、そのような生徒をしっかりと支えられる教育環境の整備を高校で進めてほしい。(大崎地区) 子どもの発達課題に応じた支援が必要であり、個別対応の充実が大切である。(南部地区) 発達の未熟な生徒や家庭内暴力を受けていた生徒への対応について、きめ細かい柔軟な対応が必要であるので今後の体制の改革を期待したい。(南部地区) 情緒障害や外国人の生徒の受け入れを考慮してほしい。(南部地区) 無気力、閉じこもり、抑うつ、感覚過敏等の症状は、深刻な精神疾患の前触れの可能性が大きいため、先生や保護者への知識の普及・啓発も必要である。(南部地区) 	<ul style="list-style-type: none"> 発達障害や問題を抱えた生徒に対し、子どもの発達課題や課程環境に応じた、きめ細かい個別対応の充実が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 答申中間案16ページ(2)①、②、③に記載のとおり、定時制・通信制に限らず全日制の高校においても知的障害がない自閉症・情緒障害の生徒に対する教育課程の工夫や、通級による指導の活用等を検討していく必要があると考えております。
		イ インクルーシブ教育システムの充実				<ul style="list-style-type: none"> 医師の診断がない発達障害を抱える生徒への対応として、インクルーシブ教育を推進してほしい。(南部地区) インクルーシブ教育は道徳的観点からも共生社会を理解する上でも大切な教育であるので、ぜひ充実した内容にしてほしい。(中部地区) 	<ul style="list-style-type: none"> 充実したインクルーシブ教育を推進してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 答申中間案17ページ③イの記載のとおり、インクルーシブ教育の教育システムを充実していくこととしており、配慮が必要な生徒への指導の工夫のみならず周囲の生徒の指導も含めて、今後も適切に推進してまいります。
ウ 通級による指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> 就労後を見据えた通級による指導の内容の研究・開発や、教育と労働・福祉等の関係機関が協働し、在学時から卒業後までを組織的に支援するための施策の実施に努める必要がある。(青葉区・男性・60代) 他校通級に関して、自分の在籍高校の教育課程を一切欠くことなく自立活動に参加できることから、通信制課程で実施する可能性があると考え。(青葉区・男性・60代) 	<ul style="list-style-type: none"> 就労後を見据えた通級による指導内容の研究・開発や、関係機関が協働し、在学時から卒業後までを組織的に支援するための施策の実施に努めるべき。 	<ul style="list-style-type: none"> 通級による指導の充実に向けて、具体的に検討してまいります。 通級による指導の体制づくりなどについて、これからの持続可能な高校教育の在り方の1つの姿と考えている。(登米地区) 各学校に小中学校の特別支援学級のような、しっかり教育を続けられる空間がほしい。(大崎地区) 高校に通級学級を設置することで、自分の学びのスタイルや特徴を捉え、社会生活にどう対応していけばいいのかを考えることができると思う。(石巻地区) 	<ul style="list-style-type: none"> 各高校に通級学級のようなしっかり教育を続けられる場を作してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 通級による指導の充実に向けて、具体的に検討してまいります。 			

		パブリックコメント			地区別意見聴取会		
項目	細項目	提出意見内容	左記意見の主旨	意見に対する考え方(案)	意見の要旨	左記意見の主旨	意見に対する考え方(案)
第4章 高校教育改革の取組	2 未来を拓く魅力ある学校づくり	(3)少子化の中での高校の在り方					
		①学校配置の考え方	<ul style="list-style-type: none"> 複数の学校に所属する教員を配置するなど工夫し、2～3学級編成の高校を積極的に活かすことも考えるべき。(泉区・男性・50代) 少子化を理由に学校を統廃合してきた結果、一層地域が疲弊しており、高校の1学級の人数を30人とする等の地域を潰さずに活性化化する学校づくりへの発想転換が求められている。(名取市・男性・60代) 1学年1学級の高校でも必要とあれば特別な手立てを用いて残すなどの検討が必要である。(青葉区・男性・50代) 地域の高校を守る必要性から、特別に教員を措置する方法も考える必要がある。(青葉区・男性・50代) 沿岸部を中心とする人口減少地域から少人数学級(30～35人)を導入し、地域の高校を維持していくことが未来ある宮城県の土台を築く第一歩になる。(岩沼市・男性・60代) 県立高校の状況は仙台一極集中である。仙台圏では学校同士が競い合う環境があるが、郡部では地域の拠点校1校のみであり、競合校を育てるといった郡部の教育環境を変える施策が必要である。(大崎市・男性・60代) 進学に特化した学科の新設や成績優秀者を対象とした特待生制度、生徒の希望に沿った弾力的なカリキュラムなど地元の学校でも十分に自分の目標や夢をかなえることができるような施策の導入が必要である。(大崎市・男性・60代) 学校の統廃合は、児童や保護者のためではなく、教員数や経費を削減し財政上スリム化する目的で行われている。中学校において35人以下の学級においても行き届いた指導がなされていない状況であり、一定の学校規模よりも30人以下学級を早急に実現すべき。(栗原市・女・50代) 栗原や大崎において、小規模であるがゆえに手厚い指導がなされ進学も就職も成功している高校がある。現在は心を病んでいる生徒も多いため、生徒・保護者・教員が顔を合わせて話ができる地元高校で寄り添いながら支援する機会を奪うべきでない。(栗原市・女・50代) 未来を担うみやぎの子が一人ひとり生かされていく学校が各地区にあってほしい。「地域に根ざす学校」を保障していくことを願う。(栗原市・女・50代) 少子化の中で、郡部の高校を変革することが県の教育力を上げると考えており、1クラス当たりの生徒数が少なければ生徒に目が届きやすくなることから、青森県や秋田県での郡部における高校の35名定員を宮城県でも実現すべき。(宮城野区・男性・40代) 郡部の学校にも大学の指定校推薦の枠が多く与えられていることから、地域の中心校に行かなくとも進学が可能であり、郡部の高校を生かすことにより進学実績の向上にもつながる。もっと中学生にアピールしていくべき。(宮城野区・男性・40代) 現存校を減らすことなく各学校の持ち味を發揮できる将来構想案を提示してほしい。(宮城野区・男性・40代) 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の高校において少人数学級を導入し、地域の高校を維持すべき。 学科の新設や特待生制度などにより地域の高校を活性化し、地域における競合校を育てるといった教育環境を整えるべき。 教員配置などを工夫し、1～3学級の高校も残すことを検討すべき。 現存校を減らすことなく各学校の持ち味を發揮できる将来構想案を提示すべき。 	<p>答申中間案18ページ①に記載のとおり、その地区における高校の在り方を踏まえて、通学への影響等にも考慮して検討を進めてまいります。</p> <p>1～3学級の高校については、答申中間案21ページ③に記載のとおり、その学校が所在する地域における高校の在り方を検討した上で学習環境や課外活動の充実を図ることを目的として再編を検討しますが、検討に当たっては、地域の実情を十分に考慮し、特例的な取扱いも含めて検討してまいります。</p> <p>なお、中学校卒業生数の減少に伴い高校入学者定員も適切に減少させる必要があると考えております。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 学科編成や学校配置等について同意する。(中部地区) 地域特性を考慮したバランスの良い学科編成や交通事情を考慮した学校配置を特に検討してほしい。(大崎地区) 連続して定員割れている高校のみを学級減とするのではなく、中学生の減少率に応じて全ての高校を対象とした定員の見直しが必要である。このままでは小規模校からなくなってしまふ。(南部地区) 生徒や地域のニーズに合った高校の設置や、複数の高校の中から学校選択ができる状況であるようお願いしたい。(気仙沼・本吉地区) 地方にいと、都市部との格差の広がりを感じる場面が多い。教育の格差を感じることがないように進めてほしい。(気仙沼・本吉地区) 郡部の学校数が減っていくと、子どもたちの選択の幅がますます狭まり、行ける学校がなくなってしまうのではないか。(栗原地区) 普通科であってもそれぞれの学校に特色があり、地域との関わりが異なるので、学校の特色も踏まえて考えてほしい。(栗原地区) 中央への一極集中ではなく、地域を活性化できるような適正な高校の配置を希望する。(栗原地区) 中部地区こそ再編を行い、他の地域からの流入を抑える必要があるのではないか。地元の子どもは地元で育てるために根付かせる施策が必要と考える。(栗原地区) これ以上の再編統合による地域の学校減少は、地域の力を弱めることになると考えている。(栗原地区) 少子化により、高校再編の検討対象になりうる地区については、将来像が描けるような記述に期待する。(登米地区) 再編統合により、地域に残る人材は減少し、限界集落に向かうスパイラルになっているのではないか。(栗原地区) 地域に有名大学への進学に特化した少人数制の学校があれば、地域からの流出は防げるのではないか。(登米地区) 地元の高校がなくなることは幸せではない。新しい学科を作り、中央から生徒を確保して、地域の活性につなげることはできないか。(栗原地区) 地域や学校の特色を考えて、数の論理での統廃合だけは進めないようお願いする。(栗原地区) 統廃合する場合は、適正な規模と公共交通機関を利用できる範囲内であることを最大限考慮してほしい。(南部地区) 学級編成の見直しや学校の統合といった対策は、通学面で大きな課題がある。(石巻地区) 	

		パブリックコメント			地区別意見聴取会			
項目	細項目	提出意見内容	左記意見の主旨	意見に対する考え方(案)	意見の要旨	左記意見の主旨	意見に対する考え方(案)	
第4章 高校教育改革の取組	2 未来を拓く魅力ある学校づくり (3) 少子化の中での高校の在り方	①学校配置の考え方				<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちが地元の身近な高校に安心して通える体制づくりに配慮することも大切である。(大崎地区) ニーズのあるなしも関係するが、受け皿が地域になれば遠くに行かなければならない。(栗原地区) 統合という方向ではなく、選択肢が広がる意味では地元の高校をなるべく残してほしい。(南部地区) 地域とともにある学校に変えていくためには、登米地域の区域の広さや学校配置を考えていく必要がある。(登米地区) 中学校で不登校でも、高校進学が1つのきっかけとなり、頑張る子どもはいる。高校が地域からなくなると不安である。(栗原地区) 主要駅までのアクセスを整備してほしい。(南部地区) 郡部では公共交通機関がますます減っている。県立高校にスクールバスの発想はないのだろうか。(南部地区) 統合により学校が遠方となることに対する保護者への経済的負担の軽減や生徒の宿泊施設の設置等の政策的な制度の導入を検討し進めてほしい。(大崎地区) 選択肢を広げる意味では、通学に係る交通手段が非常に重要である。(栗原地区) 交通インフラ整備は子どもたちが行きたい学校へ通うためにも必要である。(気仙沼・本吉地区) 	<ul style="list-style-type: none"> 通学のための交通インフラ整備、スクールバスの運行、負担軽減のための政策的な制度導入など、生徒の選択肢を広げる意味で重要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 通学のための支援については、財源の問題など課題も多いと認識しており、市町村も含めた検討が必要と考えております。
		②地区別の高校配置の方向性				<ul style="list-style-type: none"> 仙南地域に新しい学校の形を取り入れた多部制定時制高校を設置してほしい。できれば不登校中学生も通級できる施設等を検討してほしい。(南部地区) もう一度前向きに学習や人間関係の構築などに取り組めるような多種多様な支援の在り方や理解が求められており、多面性の定時制高校は必要である。(南部地区) 伊具・角田地区にある各1校はこの地域に最低限必要なため維持してほしい。(南部地区) 	<ul style="list-style-type: none"> 地域に新しいタイプの多部制定時制高校を設置してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 南部地区への多部制定時制高校の設置については、県全体での定時制高校の在り方やバランスを考慮して検討してまいります。 答申中間案18ページ(3)に記載のとおり、高校再編の検討に当たっては、その地域における高校の在り方について地元関係者の意見も聞きながら検討を進めていくこととしております。
		○南部地区						
		○中部地区	<ul style="list-style-type: none"> 中部地区の中学校卒業生数のデータに関して、データの取り方を精査する必要があるのではないか。また、データの取り方によっては、今後10年間の方向性の内容を見直す必要があるのではないか。(宮城野区・男性・60代) 	<ul style="list-style-type: none"> 中学校卒業生数のデータの取り方を精査すべき。 	<ul style="list-style-type: none"> 誤解のないよう適切な表記に修正します。なお、中学校卒業生数のデータについては、答申に向けて時点修正してまいります。 			
		○大崎地区	<ul style="list-style-type: none"> 大崎地区の再編について、①鹿島台商業高校、松山高校、南郷高校を統合し、商業、情報、福祉、家政の4学科構成とする。校名は「志田学館高校」で校舎は鹿島台商業高校を使用する。②加美農業高校、中新田高校を統合し、校名は「加美産業高校」とする。③岩出山高校は玉造地区唯一の高校として廃止せず、普通、福祉、観光等の学科とし、校名は例えば「大崎有備館高校」とするなど変更も検討すべき。(大崎市・男性・50代) 旧玉造郡唯一の高校である岩出山高校は多大な地域貢献をしており、存続は必要である。(大崎市・男性・60代) 大崎地区にも登米総合産業高校のような中規模のキャリア教育専門高校の設置が望まれる。南郷高校の産業技術科と鹿島台商業高校の商業科、松山高校の家庭科を統合し、それぞれ2学級の1学年6学級の高校とし、南郷高校に他の2科を統合するのがベストである。(石巻市・男性・70代) 鹿島台商業高校と松山高校、南郷高校の3校を統合して名称を大崎東高校等とし、魅力ある高校に再編すべき。交通環境が良く、子供たちの人格形成に最適な教育環境のある鹿島台地域に校舎を新設すべき。(大崎市・男性・60代) 	<ul style="list-style-type: none"> 鹿島台商業高校、松山高校、南郷高校を統合。 加美農業高校、中新田高校を統合。 岩出山高校は存続。 登米総合産業高校のような中規模のキャリア教育専門高校を設置すべき。 	<ul style="list-style-type: none"> 高校再編等の検討に当たっては、その地域における高校の在り方について地元関係者の意見も聞きながら検討を進めることとしております。 	<ul style="list-style-type: none"> 大崎地区は、旧市町村に1校ずつ学校があるので、地元の高校に進学する点から見ると理想的な地域。今後そのような地域をなくしていくことは、地域を大事にする考えに矛盾する。(大崎地区) 大崎地区には水産以外の学科が全てあるので、これらの学科を大事にしてほしい。(大崎地区) 大崎地区には普通科が十分にあるので、実業学科を大事にした学科編成をお願いしたい。(大崎地区) 大崎地区にある11校の県立高校を1校もなくすることのないようお願いします。(大崎地区) 	<ul style="list-style-type: none"> 旧市町村単位にある各高校と令ある学科を大事にし、さらに専門学科を充実してほしい。 答申中間案18(3)ページに記載のとおり、その地区における高校の在り方を踏まえて、通学への影響や地区内での学科バランスなどにも配慮して検討していくこととしております。 	

		パブリックコメント			地区別意見聴取会		
項目	細項目	提出意見内容	左記意見の主旨	意見に対する考え方(案)	意見の要旨	左記意見の主旨	意見に対する考え方(案)
2 第4章 高校教育改革の取組	(3) 少子化の中での高校の在り方	○栗原地区			<ul style="list-style-type: none"> ほとんどがの生徒が市内や近隣の登米、大崎に進学している状況であり、通学距離が長くなるほど本人や家庭の負担が大きい。(栗原地区) 栗原地区の学校再編が進んでいる中で、栗駒中学校と岩ヶ崎高校の中高一貫という話題が出てきている。地域の高校を残すため、一つの考え方として受け止めてほしい。(栗原地区) 比較的成绩の良い生徒は、仙台や大崎、登米、一関に行く。一方で、学力が十分身に付かないままに高校で受け入れてもらっている現状もある。(栗原地区) 2校が定員を下回っているが、現在、栗原地区の東西南北に4校が存在していることは、地域や経済を支える上で大きな意味があると考えられる。(栗原地区) 栗原市の学区が大分広がってきており、スクールバスの利用者もいる。生徒数や教職員数も減少し、部活動においてはバス、廃部せざるを得ない状況も出ている。(栗原地区) 	<ul style="list-style-type: none"> 区域が広いことから、通学等に配慮した学校の在り方を検討してほしい。 中高一貫校について、地域の高校を残す1つの考え方として受け止めてほしい。 	<p>答申中間案18ページに記載のとおり、その地区における高校の在り方を踏まえ、通学への影響や地区内での学科バランスなどにも配慮して検討していくこととしております。</p>
		○登米地区			<ul style="list-style-type: none"> 登米市は医療職不足が深刻である。看護学生を地域で育てるといふ考え方はどうか。(登米地区) 佐沼高校(普通科)に、看護科など医療職に就くことを目的とする学科があってもよいのではないか。(登米地区) 	<ul style="list-style-type: none"> 登米地区に看護科など医療職に関する学科が必要である。 	<p>答申中間案13ページ(1)の記載のとおり、地域の状況や本県の産業構造等を踏まえ、学科等の在り方について検討してまいります。</p>
		○気仙沼・本吉地区			<ul style="list-style-type: none"> 気仙沼・本吉地区は「県境隣接地高等学校入学志願取扱協定(隣接協定)」がある。生徒の選択幅拡大のためにもこの協定を大事にしてほしい。(気仙沼・本吉地区) 県境にある地域にとって、地域を広く見渡して考えることも必要である。(気仙沼・本吉地区) 通学の関係上、南三陸沿岸の統合は現実的には難しいのではないかと。災害があった時の避難所の指定や細かいマニュアルも作る必要がある。(気仙沼・本吉地区) 気仙沼・本吉地区は、地理的な環境が他の地域と違う。(気仙沼・本吉地区) 地区の高校の配置は、交通事情を考えた上で、移転する気仙沼向洋高校と地域的なバランスを考慮する必要がある。(気仙沼・本吉地区) 隣県や内陸部の他の地域からも生徒が来るような学科の配置バランスを、将来を見据えた観点からもう一度検討してほしい。(気仙沼・本吉地区) 気仙沼全体が、未来を豊かに切り開く力を学ぶことができる先進地となり、そこに魅力を感じる生徒が集まる仕組みを作ってほしい。(気仙沼・本吉地区) 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の選択幅拡大のためにも、「県境隣接地高等学校入学志願取扱協定(隣接協定)」を大事にしてほしい。 内陸部など他の地域から集まるような学科の配置バランス等について再検討してほしい。 	<p>答申中間案13ページ(1)の記載のとおり、地域の状況や本県の産業構造等を踏まえ、学科等の在り方について検討してまいります。</p>
③適正な学校規模		<ul style="list-style-type: none"> 必ずしも4学級以上が適切であるわけではなく、学校の地域における拠点センター的な機能や小規模校のよさを見直すべき。(泉区・男性・50代) 教員と生徒がお互いに見える関係を作るには生徒数は300人程度が限界であり、学級定数を更に縮小すればより行き届いた教育が期待されることから、適正規模ではなく少人数学級を推進すべき。(大崎市・男性・60代) 現在一定の学校規模に達していない学校に対する活力ある教育環境につながる支援が必要である。(太白区・男性・60代) 適正な学校規模の目安ができるまでとどん学校統廃合が進む恐れがあることから、生徒の通学手段や貧困格差の実態などについて調査する必要がある。(若林区・男性・70代) 適正規模を4～8学級とした点は大きな問題であり、この考え方では多くの学校が地域から消滅し、子供たちは遠距離の高校に進学することになり、地域を支える人間を育てることができない。地域に高校を残し、子供たちを地域で育てる教育の推進が必要である。(若林区・男性・50代) 	<ul style="list-style-type: none"> 適正な学校規模については、現構想では規定していませんが、中学校卒業生数の減少が見込まれる中で学校の活力維持と生徒の興味・関心や多様な進路希望に対応できる教育環境を確保するために今回改めて規定しようとするものです。学校規模による教員配置や開設科目、部活動の設置状況を勘案するとともに、平成29年度に実施した「県立高校に関する調査」での教員・保護者からの意見や地県の状況を参考とした上で、本県の現在の各校の設置学級数を考慮し、4～8学級としております。なお、適正な学校規模を満たさない高校については、地域における高校の在り方について検討した上で、学習環境や課外活動の充実を図ることを目的に再編を検討しますが、生徒の通学への影響など地域の実情に配慮した例外的な取扱いも検討することとしていっております。 	<ul style="list-style-type: none"> 仲間や友達がクラスに少ない学校では、人間形成や人間社会に必要な知恵が身に付かなくなるのではないかと。(気仙沼・本吉地区) 自分たちの時代は、生徒数が多い地域に人がいる中で育ったという環境により、知恵や強さが養われたと考える。そういった意味で、ある程度学校の規模というものは維持するべきである。(気仙沼・本吉地区) 早い時期から自分とは違う子がいることを見ていると、多様性を認識でき、優しい生徒が多くなることにつながると思えることから、一定数の生徒数や学校規模は確保したい。(石巻地区) 小中学校と保育所が一緒になって運動会や文化祭を行っていることや、小さい学校でもある程度いじめの問題があることを考えると、小規模校のままでよいのが疑問である。(石巻地区) 	<ul style="list-style-type: none"> 様々な考え方や価値観に触れ、多様性を認識し、人間形成や人間社会に必要な知恵等を身に付けるには、一定の生徒数や学校規模が必要である。 4～8学級が本当に適正な学校規模なのか。また、1学級40人が本場に理想なのか。 3学級以下は統廃合の対象と書かず、志高い人材育成を目指してほしい。 適正規模は都市的な感覚であり、地方では学校選択の幅が狭まってしまうのではないかと。 少人数学級などクラス定員を見直すことも必要ではないかと。 小規模校でも特色のある学校を作り、地域を活性化させる施策を考えてほしい。 	<p>適正な学校規模については、現構想では規定していませんが、中学校卒業生数の減少が見込まれる中で、学校の活力維持と生徒の興味・関心や多様な進路希望に対応できる教育環境を確保するために今回改めて規定しようとするものです。学校規模による教員配置や開設科目、部活動の設置状況を勘案するとともに、平成29年度に実施した「県立高校に関する調査」での教員・保護者からの意見や地県の状況を参考とした上で、本県の現在の各校の設置学級数を考慮し、4～8学級としております。なお、適正な学校規模を満たさない高校については、地域における高校の在り方について検討した上で、学習環境や課外活動の充実を図ることを目的に再編を検討しますが、生徒の通学への影響など地域の実情に配慮した例外的な取扱いも検討することとしていっております。</p>	

項目		パブリックコメント			地区別意見聴取会			
		提出意見内容	左記意見の主旨	意見に対する考え方（案）	意見の要旨	左記意見の主旨	意見に対する考え方（案）	
第4章 高校教育改革の取組	2 未来を拓く魅力ある学校づくり (3) 少子化の中での高校の在り方	③適正な学校規模	<ul style="list-style-type: none"> 学校は地域の希望である。適正規模という経済性や合理性を重視した高校の統廃合には反対であり、学年1～3クラスの高校でよい。(栗原市・女・50代) 適正な学校規模の目安を4～8学級とした根拠が不明であり、学級定員を30人程度とするなど工夫できると考える。(青葉区・男性・50代) 生徒同士が皆の顔と名前を知り、教員も生徒の顔と名前を知って生徒と教員が互に見えぬ関係を作ることのできる規模が適正規模であり、地域の子どもたちが自宅から自転車を通える範囲に高校を配置すべき。(岩沼市・男性・60代) 			<ul style="list-style-type: none"> 浜の子どもは、中学校の時は真面目で優秀だが、あまり揉まれなからか、意志が弱いからか、悪い方に染まる生徒が多い傾向にある。大きな学校に1つにまとまって、勉強など何でも競争させるべきである。(石巻地区) 学校の適正規模について、4～8学級を目安にするがあるが、どこから出てきたものか。また、1学級40人が本当に理想かを考えてほしい。(大崎地区) 安易に数の論理で1学年3学級以下は統廃合の対象とは書かずに、副題にあるとおり、志高い宮城県の人材育成につなげてほしい。(栗原地区) 学校の適正規模が4～8学級となると、気仙沼・本吉地区にとっては危機感を覚える。(気仙沼・本吉地区) 数の論理から考えると将来の栗原地区の高校数は2校となり、どちらかしか選べないとなると子どもたちにとって不幸ではないか。適正な学校規模として4～8学級という構想は、都市的な感覚であり、乱暴な考えではないか。(栗原地区) 学級減よりもクラス定員の見直しの方が効果的だ。(石巻地区) 1学級40人ではなく、例えば20人にすればより不登校や障害を持った子どもたちに手をかけられる。(大崎地区) 規模が小さくても、特色のある学校を作り上げることで、逆に都市部から地域に人を呼び込むといった、地域を活性化する施策を考えてほしい。(栗原地区) 地域により事情が異なるので、適正な学校規模の見極めが非常に難しい。統合により高校がなくなれば、地域住民はもとより様々な分野で大きな損失と困惑をもち、生徒達に大きな負担を強いることになる。(気仙沼・本吉地区) 		
		(4)魅力ある学校づくり						
		①特色ある取組	<ul style="list-style-type: none"> さらに高校の特色化を進めようとしていると読めるが、普通科系の特色ある高校とはどんな学校を言うのか。(若林区・男性・70代) 「特色をつくれ」と脅迫されているように感じる。日々の校務を堅実に遂行すれば結果として特色が出ることになる。(泉区・男性・50代) 新しい学習形態の導入や学級規模や募集方法等の特例の記述は意図が不明であるので、現段階で意図しているものを示すべき。(太白区・男性・60代) 	<ul style="list-style-type: none"> 普通科系の特色ある高校とはどんな高校であるのか。 	<ul style="list-style-type: none"> 普通科においても、進学、部活動、地域との連携など、学校や地域の実情に合わせた特色づくりが行われていると考えております。 	<ul style="list-style-type: none"> 高校の特色に応じた合格基準を検討してほしい。(大崎地区) 各学校が特徴を持って、学校としての使命を果たし、学校のカラーを出していくことは重要である。(大崎地区) 移住定住でなくても、都会からの入学生を受け入れる体制を検討してほしい。(栗原地区) スポーツ科学科の設置などはいかがか、地域の強みであるスポーツ競技力を更に伸ばせる環境ができないか。(栗原地区) 	<ul style="list-style-type: none"> 学校の特色に応じた募集方法や地域の強みを活かした特色ある学科の設置など、学校のカラーを出すことを検討してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 答申中間案22ページ①に記載のとおり、特色ある学校や学科の設置、特定の学科における生徒の募集については十分に検討する必要があると考えております。
②再編整備計画の策定	<ul style="list-style-type: none"> 将来構想そのものが再編整備計画なのではないか。将来構想ではなく、宮城県立高校再編整備計画とすればよいのではないか。(若林区・男性・70代) 	<ul style="list-style-type: none"> 将来構想そのものが再編整備計画であり、宮城県立高校再編整備計画とすべき。 	<ul style="list-style-type: none"> 将来構想は県立高校の在り方に関する大きな方向性を示すものです。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域から高校がなくなることは、多方面に影響が出るので、地域の方々の話し合いや情報の公開等を繰り返し時間をかけて行い、納得してもらいながら計画的に進めていくことが重要である。(大崎地区) 総体的に見ても高校再編はやむを得ないが、様々な観点から検討を行い、諸問題をクリアした上で整備してほしい。(大崎地区) 母校愛は誰もが持っているので、簡単に統廃合を進めるとこないよう、地域の意見を十分に聞いて進めてほしい。(大崎地区) 	<ul style="list-style-type: none"> 高校再編に当たっては、地域の意見を十分に聞き、納得してもらいながら計画的に進めてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 答申中間案22ページ②に記載のとおり、具体的な再編を検討するに当たってはその地域における高校の在り方について地元関係者の意見も聴きながら検討を進めてまいります。 		

		パブリックコメント			地区別意見聴取会		
項目	細項目	提出意見内容	左記意見の主旨	意見に対する考え方(案)	意見の要旨	左記意見の主旨	意見に対する考え方(案)
第5章 将来構想の推進	1 家庭・地域・学校の協働の必要性	家庭・地域・学校の協働の必要性			<ul style="list-style-type: none"> 家庭・地域・学校の協働の必要性を挙げているというところが、非常に大切なところである。(栗原地区) 家庭・地域・学校の協働の必要性については、登米市内の小学校、中学校でも導入しているコミュニティ・スクールに通じる考え方だと感じた。(登米地区) 学べる環境の確保と魅力ある高校づくりを推進するには、地域と学校、保護者、行政が1つになり、段階的に将来構想を推進していく必要があると感じる。(気仙沼・本吉地区) 教育は学校だけでは限界があるので、家庭や地域、企業と関わりを多くするための施策が必要である。(中部地区) 現在の子どもたちは、直接的なコミュニケーションが薄れているので、地域コミュニティなどを通じた人との関わりを家庭や学校で向上させていくことが必要である。(大崎地区) 学校の枠を越えて、地域資源を活用した一生の記憶に残る経験をしてほしい。(登米地区) 日頃の教育活動の様子を生徒、保護者、地域にPRしてほしい。(登米地区) 	<ul style="list-style-type: none"> 家庭・地域・企業・行政など、学校の枠を越えて協働し関わることが必要である。 日頃の教育活動の様子を生徒、保護者、地域にPRしてほしい。 	<p>答申中間案23ページ1に記載のとおり、家庭・地域・学校の協働による教育環境の充実、多様な個人や団体との交流から地域への愛着形成を促し、将来の地域の担い手となる人材育成に効果的であると考えております。</p> <p>教育内容や各学校の特色ある取組を積極的に発信していくことを明確にするため、答申中間案23ページ1に「情報発信」の文言を追加します。</p>
	2 適正な進行管理	将来構想の推進に向けた適正な進行管理			<ul style="list-style-type: none"> 答申に向けてのスケジュールや将来構想の動きを地域の方や保護者、生徒等に周知し実行してほしい。(石巻地区) 構想をどれだけ実践しているか、実績はどうだったのかということも理解していくことが大事ではないか。(気仙沼・本吉地区) 国内や国際社会の動きが速くなっており、IoTやAIが出現するなどどんどん進んでいる時代に、10年というスパンが果たして適切か。適正な進行管理に期待する。(大崎地区) 	<ul style="list-style-type: none"> 将来構想の動きや実績等を明らかにして発信していくことが大事ではないか。 	<p>答申中間案23ページ(2)に記載のとおり、将来構想の具体的な推進にあたっては再編整備計画に基づき、適宜進捗状況を把握し、成果や有効性について確認することとしておりますが、「情報提供」という文言を追加し、情報発信について工夫してまいります。</p>

		パブリックコメント			地区別意見聴取会		
項目	細項目	提出意見内容	左記意見の主旨	意見に対する考え方(案)	意見の要旨	左記意見の主旨	意見に対する考え方(案)
定義・用語に関する「と	定義・用語に関すること	<ul style="list-style-type: none"> 「学力」の定義は何か。(泉区・男性・50代) 「自己実現」の定義は何か。(泉区・男性・50代) 「志教育」と「キャリア教育」の区別がつかない。(泉区・男性・50代) 「学校教育」と「家庭教育」を混同せず、学校の授業で何を学習するのかを中心に考えるべき。(泉区・男性・50代) 	<ul style="list-style-type: none"> 「学力」の定義は何か。 「自己実現」の定義は何か。 「志教育」と「キャリア教育」の区別がつかない。 「学校教育」と「家庭教育」を混同せず、学校の授業で何を学習するのかを中心に考えるべき。 	<ul style="list-style-type: none"> 用語については、誤解のないよう適切に使用してまいります。 答申中間案23ページ1に記載のとおり、学校と家庭がそれぞれの役割を分担して連携して高校教育を発展させていくこととしています。 			
	構成に関する「と	<ul style="list-style-type: none"> 構成に関すること 答申中間案が誰に向けて書かれているのが曖昧で、問題点や課題が明確でない。学校教育に密接に関わる関係者に向けた記載とすべきで、全体構成も教員に向けた節や行政に向けた節などとすべき。(泉区・男性・50代) 第1章1(2)①、②と第1章2をまとめて記述することにより、これまでの将来構想期間中の取組の成果と課題が明確になると考える。(若林区・男性・70代) 記載内容が県立高校のみであるので、第1章「高校教育を取り巻く現状と課題」というタイトルはおかしいと考える。(若林区・男性・70代) 第1章2と第2章2の関連性を明確にして、現状から見える課題と構想策定の関わりを第2章1に記述すべき。(若林区・男性・70代) 内容をもっと精査すべき。(泉区・男性・50代) 	<ul style="list-style-type: none"> 答申中間案は、学校教育に密接に関わる関係者に向けた記載とすべき。 記述方法及びタイトルを精査すべき。 記述内容を精査すべき。 記述内容を精査すべき。 	<ul style="list-style-type: none"> 将来構想は県立高校教育改革の基本的な方向性を示すものであり、学校教育関係者を含む全ての県民に向けたものと考えております。 第1章1では「新県立高校将来構想」期間中の主な動きの成果と課題を、第1章2では高校教育を取り巻く現状と課題に分けて記載し、これらを受けて第2章の「新たな県立高校将来構想の策定について」につなげ記載しております。 第1章2に記載した内容を第2章2で受けて課題と構想策定の関連性を踏まえて記載しております。 引き続き、県立高校将来構想審議会において、内容を精査してまいります。 			
中間案全体に関する「と	人づくりに関すること				<ul style="list-style-type: none"> 人や地域社会とのつながりが希薄になっているので、つながる実感や自己有用感を育む取組を授業で行ってほしい。(南部地区) 社会や地域課題に関心を持たせていき、社会で自分が必要とされる存在であることを高校で身に付けてほしい。(大崎地区) 他者と協働し思いやりある心を持つ中で、課題解決能力やコミュニケーション能力は日々の学校生活や部活動等で備わっていくと思う。(大崎地区) 人が人として生きるために必要な人間性の育成と社会性の確立、道徳教育の重要性の再認識が必要である。(気仙沼・本吉地区) 思考力・判断力・表現力、主体性・多様性・協働性を身に付けることが必要である。(気仙沼・本吉地区) 社会に役立つ思考力・判断力・表現力・主体性・多様性・協働性を身に付けてほしい。(大崎地区) 部活など1つのことをやり通すことや、得意なことを1つ持つことをこれからの高校生や学生に求めたい。(石巻地区) バイタリティある生徒を求める。(石巻地区) 学校の部活で、挨拶や礼儀等の指導をしてほしい。(中部地区) コミュニケーションや礼儀・マナー、社会性を育てることが重要であり、現実を知り学ぶ機会を増やしてほしい。(中部地区) 社会的弱者等と交流する機会を創出し、道徳の教育等により豊かな心を育てるプログラムがあるとよい。(南部地区) コミュニケーションをどうしていくかをまず考えるべき。(気仙沼・本吉地区) ものづくりが進歩したが、やはり全ては人であり、コミュニケーション能力が重要である。(大崎地区) 	<ul style="list-style-type: none"> 学校では、様々な活動を通して、他者と協働し豊かな心を育むとともに、自己実現や社会貢献につながる力を身に付けてほしい。 人との関わりやコミュニケーション能力が大事であり、若い頃に身に付けるべき。 	<ul style="list-style-type: none"> 各教科・科目の学習や特別活動、総合的な学習の時間等において、学力、体力のほか、社会人として求められる基本的な資質・能力の育成に努めておりますが、答申中間案9ページの「目指す人づくりの方向性」に基づき、今後も知・徳・体バランスのとれた生きる力の育成を推進してまいります。
内容に関する「と							

		パブリックコメント			地区別意見聴取会		
項目	細項目	提出意見内容	左記意見の主旨	意見に対する考え方（案）	意見の要旨	左記意見の主旨	意見に対する考え方（案）
中間案全体に関するコメント	人づくりに関すること				<ul style="list-style-type: none"> 主体性や判断力は、経験や自信が付けば自ずと習得できるものであるが、コミュニケーション能力は、できるだけ若い頃に身に付けた方がよい。（気仙沼・本吉地区） これからは人との関わりやコミュニケーション能力が大事になってくる。子どもたちが自ら考え、動き、判断するところは特に重視してほしい。（栗原地区） 9ページに「豊かな心、健やかな体と自ら考え行動する力を持ち、自己実現、社会貢献できる人づくり」と記載されているが、「豊かな心と健やかな体と自ら考え行動する力を持ち、自己実現と社会貢献できる人づくり」にした場合どういうイメージになるか検討してほしい。（大崎地区） 		
	学校づくりに関すること				<ul style="list-style-type: none"> 異文化を受容できる力を備え、多様な人々と協働するためには、多くの人と関わるのが大切であり、地域や企業、他校生と触れ合う機会があるとよい。（中部地区） 持続可能なまちづくりのためには、主体的に課題解決や新しい価値の創出を行い、豊かな未来を切り拓いていく人材を育てていくこと、積極的に高校の魅力化を推進し、外の地域からの入学生を誘致することが必要である。（気仙沼・本吉地区） 他の地域から来る生徒が増えれば、多様性を学ぶことや、当たり前にある地元の資源の価値を再認識する機会を得られると思う。（気仙沼・本吉地区） 地域には、活力ある高校がどうしても必要であり、また、地域を維持するためには、どんどん人を呼び込み、活発な交流ができるような感覚や人材が必要である。（気仙沼・本吉地区） 学校では郷土の歴史や文化についても教えてほしい。（中部地区） 	<ul style="list-style-type: none"> 異文化を受容できる力や、多様な人々と協働して新たな価値を創造する力を育成するには、多くの人と関わるのが大切であり、そのような機会があるとよい。 	<ul style="list-style-type: none"> 答申中間案の11ページ④や12ページ⑥に記載の取組を推進するため、多くの人と関わり協働する機会の創出は重要であると考えております。
	学校づくりに関すること				<ul style="list-style-type: none"> 途中で進路を変えたい生徒に対応できる学校は魅力的である。（中部地区） 一人一人の長所や強みを最大限に活かしていくことが重要である。（大崎地区） 地方の高校であっても、個々の力を伸ばし大学に進学できるような学校体制づくりをお願いしたい。（気仙沼・本吉地区） 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒一人一人の力を伸ばし多様化するニーズに応えられる学校体制づくりと、それぞれの地域や産業に関わる特色を打ち出すことが大切である。 	<ul style="list-style-type: none"> 答申中間案13ページ①に記載のとおり、地域の状況を踏まえ、生徒一人一人のニーズに応じた学科ごとの教育課程の充実を図ってまいります。

		パブリックコメント			地区別意見聴取会		
項目	細項目	提出意見内容	左記意見の主旨	意見に対する考え方(案)	意見の要旨	左記意見の主旨	意見に対する考え方(案)
内容に関する事 中間系全体に関する事	学校づくりに関すること				<ul style="list-style-type: none"> 生徒の多様な個性や能力を引き出すためにも、教員同士の交流など人事の多様化があるとよい。また、地域や企業、卒業生の講話があるとよい。(中部地区) 生徒一人一人の能力を見出し、獨創性を活かすことを大切にすることが重要である。(石巻地区) 生徒や保護者が高校に求めているものは、進学率、就職率の向上や適切な職業観の育成と離職率の減少、地元企業との産学連携など多様多様化していると思う。(登米地区) それぞれの学校が、地域性や産業等にかかわる特色を打ち出した魅力ある学校であることが大事であると思う。(気仙沼・本吉地区) 今後、高校に求められる姿は、専門分野を深く学べる高校、大学進学を主な目的とした学校、各種産業を学べる学科総合型産業高校、柔軟に学べる定時制の高校、その4つに分類されるのではないかと。(気仙沼・本吉地区) 地域社会とつながった学びが重要である。(大崎地区) 松島高校観光科は、地域から学ぶといった地域の教育力を活用している。(中部地区) 小中学校や企業等と連携し、地域に根ざした高校づくりを目指してほしい。(南部地区) 学校はそれぞれの地区の拠点となりながら、人と人をつなぐ場所でもある。卒業などで離れても、多くの人に関心をもってほしい。(気仙沼・本吉地区) おもてなしの心を持ち、自信を持って社会に出ていけるように、地域と協働した特色ある取組を基にした魅力ある学校づくりが必要である。(中部地区) 佐沼や登米の高校は歴史もあり地域にしっかり根付いているので、連携がとりやすい環境であるが、登米の産業は歴史も浅いため、今後は地域との関係の構築が必要である。(登米地区) 「地域に根ざし、地域に貢献できる」ということだが、地元の学校に通わずにどのような形で地域に根ざした活動ができるのかと思う。(栗原地区) 地域に貢献ということだが学区が広がった場合、自分が生まれ育ったその地域での活動がかなり少なくなってくるのではないかと。そうすると地域への愛着は、薄せてしまうのではないかと。(栗原地区) 	<ul style="list-style-type: none"> 今後、高校に求められる姿は、専門分野を深く学べる高校、大学進学を主な目的とした学校、各種産業を学べる学科総合型産業高校、柔軟に学べる定時制の高校の4つに分類されるのではないかと。 地域社会とつながった学びは重要であり、高校においては、小中学校や企業等との連携を通して、地域に根ざした魅力ある学校づくりが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 柔軟に学べる学校として総合学科も含め、特色ある学校づくりの1つの視点として捉えております。 教育は、各学校の段階において完結するものではないことから、校種間連携を一層推進し、様々な機関と連携しながら、地域の人々と一体となって子供を育てていくことが重要であると考えており、答申中間案15ページ②に記載のとおり、連携・協働を推進してまいります。
	学区制について	<ul style="list-style-type: none"> 全県一学区制は、学力という観点から子供たちを輪切りにするものであり、いじめや引きこもりの大きな誘因になっている。将来構想についても仙台中心の考え方がありと思われる。周辺部の高校には35人学級や30人学級を取り入れ、学年1クラスの高校も容認するような地域のことを考えた将来構想にしてほしい。(太白区・男性・70代) 全県一学区化により地方の高校は衰退し、栗原市内では、優秀な生徒は仙台や古川に通学している状況である。逆に、仙台圏の生徒が仙台圏域以外に通学している例も多くなっており地域間格差は広がっている。「高校教育の目指す姿」を実現するためには、地元の高校で多様な生徒と協働しながら学校生活を送るべき。(栗原市・女・50代) 全県一学区化は中部地区以外の学校にとっては大打撃であり、第一段落は撤回すべき。(泉区・男性・50代) 全県一学区化による地域間の流動による影響が徐々に出てきており、問題を多く含んでいると思う。(若林区・男性・70代) 	<ul style="list-style-type: none"> 全県一学区化により、地域間格差は広がり、また学力の観点での生徒の輪切りがいじめ等の問題の誘因にもなっている。地域のことを考えた将来構想にすべき。 全県一学区化は中部地区以外の学校にとっては大打撃であり、第一段落は撤回すべき。 	<ul style="list-style-type: none"> 平成26年7月の全県一学区化に関する将来構想審議会の答申及びその後の動向をみると、一学区化の前後で大きな差異はないと認識しております。また、全県一学区化により、高校選択の幅が広がったことにより、より進路選択について主体性が増したこと、高校の特色づくりが一層推進されたことなど、一学区が県内中高教育の活性化につながっていると考えております。 中学校卒業生数の減少に伴い高校入学者定員も適切に減少させる必要があると考えております。 	<ul style="list-style-type: none"> 学区制が廃止になり、良い大学を目指す力ある子どもたちは、ナンバースクールに進学するようになった。(登米地区) 仙台圏のナンバースクールや私立高校への進学者が増加している。(南部地区) 全県一学区により、地方から仙台や他の地域に生徒が流出している状況だ。栗原地区においては、絶対数が少ない分、割合が大きくなっている。(栗原地区) 	<ul style="list-style-type: none"> 学区制の廃止等により、ナンバースクール等への進学者が増加し、生徒が流出している。 平成26年7月の全県一学区化に関する将来構想審議会の答申及びその後の動向をみると、一学区化の前後で大きな差異はないと認識しております。また、全県一学区化により、高校選択の幅が広がったことにより、より進路選択について主体性が増したこと、高校の特色づくりが一層推進されたことなど、一学区が県内中高教育の活性化につながっていると考えております。 	

項目		パブリックコメント			地区別意見聴取会		
項目	細項目	提出意見内容	左記意見の主旨	意見に対する考え方(案)	意見の要旨	左記意見の主旨	意見に対する考え方(案)
中間系全体に関する「た	地域の活性化等について				<ul style="list-style-type: none"> ・ 将来を担う若者たちが、地域に根差すことが必要である。そのためには、早い段階で地域産業や道路を意識させ、地域に貢献したいと感じさせる地域を創出し、結果地元で根付くような地域活性スバイラルを実現することが非常に重要である。(大崎地区) ・ 地域の発展のために、学校は地域に求められる人材を育成し、企業等は将来この地域で働きたいと思わせるアピールが必要である。(大崎地区) ・ 地域産業を担う人材が地元で根付くには、企業と連携しながら情報発信などの取組をしてほしい。(大崎地区) ・ 魅力的な学校があれば、まちの活性化につながり、さらに、人づくりができれば地域が良くなっていくことにもつながる。(気仙沼・本吉地区) ・ 地元で志志ある若者が増え、定着すれば、起業や挑戦が増え、新しい産業やまちづくりの可能性が広がっていく。(気仙沼・本吉地区) ・ 一度は進学等で外へ出た人材が、新しい学びを得て戻り、その後、地元での活動を通して、地域の知名度を広めることに寄与すると考える。(気仙沼・本吉地区) ・ 地方で学び育ち、その後、仙台や東京に行くことは仕方がないが、一回りも二回りも成長して戻ってこられるような地域にしていきたい。(栗原地区) ・ 自分の夢をもって他の地区に行くことを拒むものではないが、地元の良さを知り、地元で就職する生徒を増やす努力を地域社会全体でしていくことが必要と考える。(気仙沼・本吉地区) ・ 子どもは独立させなければならないが、親といくと家で家から出たがらない子が増えている。(登米地区) ・ 地域に悪い思い出のある子は地域に戻らない。(登米地区) ・ 魅力ある学校をつくることで、移住定住をアピールすることもでき、移住する人も出てくると思う。(栗原地区) ・ 地域に目を向けると資源は豊富にある。自然や文化資源もそうだが、人も含めて豊かであると感じている。(気仙沼・本吉地区) ・ 外に出て自分の故郷に目を向けるような、子どもたちが目を向けたくなるような形で、情報発信することが必要である。(登米地区) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域に根ざした魅力ある学校があれば、人が集まりまちの活性化につながる。更に入づくりができれば地域も良くなると思う。 ・ 地域産業を担う人材を根付かせるため、企業と連携しながら情報発信など取組をしてほしい。 ・ 地元が魅力的であれば、そこに人が集まる(移住、Uターンなど)と思うので、地域全体で地元の魅力などを外に発信していくことも必要である。 	<p>答申中間案の16ページ②ウに記載のとおり、地域パートナーシップ会議等を通して地域との連携を推進するとともに、地域ニーズを踏まえた魅力ある学校づくりに取り組むことにより、地域づくりに貢献する人材の育成を進めてまいります。</p>
	その他	<ul style="list-style-type: none"> ・ 答申中間案では、予算規模や予算確保の手段などについて触れるべき。(泉区・男性・50代) ・ インクルーシブ教育システムの充実について、人的配置及び予算措置の根拠を述べてほしい。(泉区・男性・50代) ・ 通級による指導の充実について、人的配置及び予算措置の根拠を述べてほしい。(泉区・男性・50代) ・ 高校は、高卒資格を与える評価・認定者であり、生徒の学習成果を適切に評価してこそその高校である。個々の生徒に応じて支援するという視点に関して、勉学に関する限り、生徒の事情を汲むことが高校の役割ではない。(泉区・男性・50代) ・ 「MAP」と「志教育」は効果の検証が不十分であり、なくなったとしても通常の教育活動で十分対応できると思う。(泉区・男性・50代) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 答申中間案では、予算規模や予算確保の手段などについて触れるべき。 ・ 人的配置及び予算措置の根拠を述べるべき。 ・ 個々の生徒に応じて支援するという視点に関して、勉学に関する限り、生徒の事情を汲むことが高校の役割ではない。 ・ 「MAP」と「志教育」は効果の検証が不十分であり、なくなったとしても通常の教育活動で十分対応できる。 	<p>将来構想は、高校教育改革の取組に関する大きな方向性を示すものです。個別の対応が必要なものについては今後検討してまいります。</p> <p>高校教育においては、一定の教育水準を保つことは必要であると考えます。一方で学ぶ意欲のある生徒に対して、個々に応じて学習内容の理解が進むように支援することも高校の役割の一つであると考えております。</p> <p>MAPはいじめや不登校防止に向けた豊かな人間関係作りにも有効に機能していると考えております。また、「志教育」は、キャリア教育と併せて生徒の在り方、生き方を考えさせるものであり、今後、高校でも道徳教育を推進していく上でも重要な教育であると考えております。</p>			

		パブリックコメント			地区別意見聴取会			
項目	細項目	提出意見内容	左記意見の主旨	意見に対する考え方(案)	意見の要旨	左記意見の主旨	意見に対する考え方(案)	
内容に関する こと	その他	・教員の資質は簡単には向上しないのだから、過度な成果を期待せず。教科学力や心身の健康状態、人格面など教員の現状が続くことを前提に答申中間案を作成すべき。(泉区・男性・50代)	・教員に過度な成果を期待せず。教科学力や心身の健康状態、人格面など教員の現状が続くことを前提に答申中間案を作成すべき。	教育公務員特例法の一部改正を受け、H30.3に策定した教員としての資質能力の向上に関する指標「みやぎの教員に求められる資質能力」を踏まえて教員採用選考や教員研修を実施していきたいと考えております。				
	将来構想策定について	・生徒数や地域の面積だけではなく、宮城県としての次世代の社会構造や産業構成、必要な人材の考え方を分析した上で学校種別毎の定員や学校構成を提案すべき。(泉区・男性・50代)	・宮城県としての次世代の社会構造や産業構成、必要な人材の考え方を分析した上で学校種別毎の定員や学校構成を提案すべき。	「県立高校に関する学校調査」や「パブリックコメント」、「地区別意見聴取会」などを実施するとともに、県立高校将来構想審議会にて様々な分野の方々からのご意見を踏まえて、検討を進めているところです。	・現役の中高生や大学生に学科希望など聞いてみてはどうか。(栗原地区)	・現役の中高生や卒業生に、どのような高校での学びを期待するかという情報収集が大事ではないか。	構想の策定にあたり、中高生や教員、保護者、卒業生、企業を対象とした「県立高校に関する調査」を平成29年9月から10月に実施し、ニーズを把握しておりますが、今後も必要に応じ情報収集に努めてまいります。	
中間案全体に関する こと	将来構想策定について	・高校の在り方や配置は県民にとって重大な問題であり、行政は県民や市民ともしっかりと対話すべき。(宮城野区・女・60代)	・高校の在り方や配置について、行政は県民や市民ともしっかりと対話すべき。	今回の検討に当たっては、パブリックコメントや地区別意見聴取会を実施しているところであり、一層の周知に努めてまいります。	・今の20代、30代に是非、高校生の時にもっと何を勉強したかったかというような情報があれば、教えていただきたい。(気仙沼・本吉地区)			
	将来構想審議会の委員に統廃合の対象となる市の関係者を入れるべき。(栗原市・女・50代)	・将来構想審議会の委員に統廃合の対象となる市の関係者を入れるべき。	具体的な再編については、別途、再編整備計画で示すこととしていますが、具体的な再編を検討するに当たってはその地域における高校の在り方について地元関係者の意見も聞きながら検討を進めてまいります。					
	入学者選抜の得点の下位層の生徒の詳細な分析など、中部地区以外の高校生の実態を踏まえて計画立案を心がけるべき。さらに、保護者の経済状況や離婚状況等の情報収集も必要である。(泉区・男性・50代)	・保護者の経済状況等も含め、中部地区以外の高校生の実態を踏まえて計画立案を心がけるべき。	県全体の状況とともに、各地域の実情にも配慮して検討を進めていると認識しております。					
	学ぶにふさわしい時期は小中学校時である。高校は小中学校で積み上げたものを発展させるという姿勢が大事であり、高校入学後の学び直しはあまり期待できないのではないかと考える。小中学校時の教育について分析し、対策案を策定すべき。(泉区・男性・50代)	・学ぶにふさわしい時期は小中学校時であり、小中学校時の教育について分析し、対策案を策定すべき。	各学校段階における児童生徒の発達の段階を踏まえた指導を確実に行うことが、教育内容の確実な習得に結び付くことから、義務教育段階の取組を充実させていくことは重要であると認識しています。今後、義務教育段階の対策については、別途検討すべきものと考えております。					

その他 要望・感想
パブリックコメント
<ul style="list-style-type: none"> ・専門学科で学んだ生徒の進学を受け入れてくれる大学があればよいと思う。(若林区・男性・70代) ・公立高校の家庭科の授業等で「アクセサリーの基礎」に関する授業をやしてほしい。(県外・男性・30代) ・大河原商業定時制については、施設・設備の充実と適正な教職員数の確保について記述してほしい。現状として大変な状況であり、打開してほしい。(青葉区・男性・50代) ・他県にも郡部の学校や小規模校を生かす事例は多く、各学校で実施している他県視察をより実のあるものにしていくべき。(宮城野区・男性・40代) ・研修生としての外国人労働者の流入が加速することを想定して、相手国の言語や文化を学ぶ学科を創設してほしい。(大崎市・男性・60代) ・栗原地区の高校の芸術系選択科目は4校のうち2校において音楽のみであり、美術の選択ができない状況である。選択の自由が確保されるよう希望する。(栗原市・男性・50代) ・働く者の権利などを高校時代に学ぶ必要がある。(若林区・男性・70代) ・第2期の改革で新たに設置した学科について、どのくらいの実績を上げられるのか動向に注目している。(宮城野区・男性・40代)
地区別意見聴取会
<ul style="list-style-type: none"> ・将来の宮城県を担う若者たちの資質向上につながる良いものだと思う。(中部地区) ・構想策定の前倒しやスピード感ある対応を高く評価する。(登米地区) ・総合的な計画として絶対必要なのは網羅性と考える。漏れはないのかという観点で見て、網羅性は感じた。漏れがないということが大事と考える。(登米地区) ・答申中間案に関しては総花的、網羅的な内容で具体性に乏しいと感じている。(登米地区) ・国の研究指定制度(SSHやSGH)等に手を挙げ際は、学校にかかる負担を考慮し、財政や人的な面で支援があると精度が上がると思う。(中部地区) ・特別な支援を要する子どもたちが実際増えているので、資料1にインクルーシブ教育のことをもう少し書き加えてほしい。(石巻地区) ・中間案の中の高校教育には、私立や通信制のサテライト校等も入るのか。全ての子どもたちの後期中等教育の在り方考える場を設置してほしい。(南部地区) ・みやぎアドベンチャープログラム(MAP)は良い取組だと思う。(大崎地区) ・日経新聞の読み方の説明会があるとよい。(南部地区) ・構想の基本的な考え方については、これまでもずっと取り組んできており、志教育も小中高の連携を図りながら取り組んでいる。(栗原地区) ・高校の進路指導の教員と中小企業経営者が年1回集まり、若者を地域でどう育てていくかをテーマに話し合っている。(中部地区) ・県内でも不登校の割合が高い方だと認識しているが、原因としては無気力が多い傾向がある。(栗原地区) ・教員はなかなか厳しい労働環境の中にいると感じている。(南部地区) ・登米市では3つの学校を1つに再編したが、通学が不便になった地区もあり少し残念である。(栗原地区) ・栗原地区の再編等で残った高校の配置は、非常に良い場所であると改めて思った。(栗原地区) ・新校舎を設置する際は、既存校舎の再利用や跡地利用を協議しながら進めてほしい。(大崎地区) ・ほとんどの生徒が学んできた専門教科を活かした就職先には行っていない状況である。(南部地区) ・松島高校観光科では、地元松島の観光資源を学習材料とした様々な実習があり、学校だけではなく、地域の方々から学ぶ機会が多くある。(中部地区) ・教職員が熱心に声掛けしているが、約3割の生徒が中途退学している。(南部地区) ・登米地区の高校進学先は多様化、広域化している。生徒や保護者の高校進学に対する価値観の多様化と、交通網の整備による進学先の広域化が考えられる。(登米地区) ・生徒数と学校数が総体的に適正化を考えると、石巻地域は学校数が多いと感じる。(石巻地区) ・生徒の9割以上が就職を希望しており、教職員とPTA役員が合同で面接指導を行っている。(柴田農林高校)(南部地区) ・全県的な入試制度の改革を検討し進めてほしい。(大崎地区) ・中高一貫校の二華・古川黎明に係る検証と今後の方向性を伺いたい。(登米地区) ・旧制高校の関係や荒れる学校対策、進学の問題について伺いたい。(登米地区) ・校長先生等が中学校を訪問し、学校の特徴を説明するなど、中高連携を意識している高校があった。(石巻地区) ・中高一貫校を考えると、連携型ではなく、拠点をつくる体制で実現できないか市に要望書を書いている。地域の事情も是非受け止めてほしい。(栗原地区) ・コミュニティ・スクールの立ち上げについては、先行事例に影響されがちで、同じようにやらなくてはならないと思う人が非常に多いと感じた。(石巻地区) ・子どもが流出していく可能性は否めないが、いつでもいいからできるだけ早く戻ってきてほしいと思っている。(登米地区) ・地域を育てるために、地域にある高校から採用していきたい。(石巻地区) ・小学校中学校高校含めて、都市部にはできない多様で豊かな学びができるというのは栗原だからだと思っている。(栗原地区) ・いじめや虐待を予防していくために、学校の中にソーシャルワーカーを配置するようになった。現在は県内の小中学校に約50名配置されている。(南部地区) ・スクールソーシャルワーカーは、いじめ・不登校・暴力行為・児童虐待問題など、学校だけでは介入が困難な事例に對し、福祉的立場から適切な対応を働きかけていく目的で支援している。(南部地区) ・本人のケアや保護者支援、担任の先生の支援では、面談やケース会議等で回復度に合わせた適切なアプローチ等を検討し、自信や自己有用感を削がないように支援している。(南部地区) ・人の話を聞いていない人が多く、地道に指導していく必要があると思っている。(社会人のこと)(南部地区) ・高校では、本人の自主性や創造性などそれぞれの可能性を活かす意味で、コーチングが効果的である。(石巻地区) ・子どもの健全育成を目的としているPTAや市市連は、横のつながりをつくっていくべきである。行政の組織内にも言えることである。(小学校PTAの話)(石巻地区) ・長距離通学に関しては、一番近い大学が石巻専修大学である。近くに大学がないことは、大変大きな問題である。(登米地区) ・最後に出た「ヒューマンスキル」ということが頭に一番残った。(登米地区) ・防災教育などのお話に感動した。今後も取り組んでほしい。(石巻地区) ・インターンシップや地域企業との連携による商品開発、他県の高校との防災交流など、教育課程の中での特色が感じられる。(石巻地区) ・地域の特産を活かした取組や、大震災の経験を踏まえた体験や実践を通した学び等、地域ニーズに応えようとする姿が見られる。(石巻地区) ・学びたいと考える生徒の学ぶ場が確保され、ありがたく思う。(気仙沼・本吉地区) ・気仙沼・本吉地区は人口減少が著しく、地元で就職する高校生も少なくなっており、地域の停滞につながりかねない状況である。(気仙沼・本吉地区) ・少子高齢化、過疎化、仙台一極集中、大震災、学区制廃止により、地域から優秀な人材が流失している。(石巻地区) ・不登校等は、家庭からの影響が大きいのではないかと。子どもたちは親・大人から影響を受ける。(栗原地区) ・我々の時代では、命令口調が多かったが今は違う。子供たちが自ら学び活動し頑張る道筋を教える時代になってきたと思う。(栗原地区) ・SNSやスマホの普及により、SNSを使ったコミュニケーションあるいは人付き合いに偏りすぎている。(気仙沼・本吉地区) ・保護者が社会の変化についていけず、ICTに関する知識が不足しているため、家庭での取り組み方法等を示してほしい。(中部地区) ・IT技術やネットの普及などにより、コミュニケーション能力の不足や情報過多による物事の本質についての判断の不足も弊害として重要視されている。(気仙沼・本吉地区) ・構想の基本的な考え方については、これまでもずっと取り組んできており、志教育も小中高の連携を図りながら取り組んでいる。(栗原地区) ・小学校統合の際、小規模校の生徒の方が成績や体力的なレベルが高いと感じた。また、親の協力がかなりあり、その姿を見ている子どもたちも圧倒的に能力が高いと感じた。(栗原地区) ・中学生の時に色々なことがあり不登校になっても、田舎の高校に来ると自分の力を発揮できることがある。(栗原地区) ・不登校の要因で最も多いのは無気力であるが、決して怠けているわけではないという捉え方や理解を関係者の中で共通理解するのが難しい。(南部地区) ・大学進学希望者が多くになっており、中学校段階で上位クラスの生徒だけが大学進学を目指す時代ではなくなってきた。(気仙沼・本吉地区) ・大学進学希望でありながらも学習への取組が消極的な中学生も多く、進路指導の難しさを感じる。(気仙沼・本吉地区) ・ひとりで親や生活困窮、核家族化等が進む中で、学校においても生徒の家庭状況を理解し配慮してほしい。(中部地区) ・優秀な人、中間層の人、特に支援を必要とする人に対する教育や指導に、それぞれ適切に力を入れてほしい。(大崎地区)